

徳島県美術家協会

美術年報

2017



目 次

はじめに	徳島県美術家協会会長 河崎 良行	1
徳島県美術家協会規約		3
後援承認事務取扱規定		4
後援名義使用承認申請書様式		5
平成 27 年度事業報告		7
平成 28 年度役員名簿		10
平成 28 年度各部役員名簿		11
第 24 回放美展記録		16
第 24 回放美展出品・入選等状況		22
第 24 回放美展公募規定		23
第 71 回徳島県美術展記録		24
第 71 回徳島県美術展出品・入選等状況		32
第 71 回徳島県美術展公募規定		33
徳島県美術展審査員一覧		34
徳島県美術展開催運営要項		38
第 12 回徳島県こども美術展出品・入選等状況		42
平成 28 年各部記録		
・日本画部	部会長 岡 英彦	44
・洋画部	部会長 平木 美鶴	47
・写真部	部会長 上野 照文	54
・彫刻部	部会長 松永 勉	58
・美術工芸部	部会長 多智花佐代子	63
・書道部	部会長 荒井 彭仙	67
・デザイン部	部会長 田中 一郎	73
平成 28 年度会員名簿		
・日本画部	79	・美術工芸部 88
・洋画部	80	・書道部 89
・写真部	84	・デザイン部 100
・彫刻部	87	

はじめに

徳島県美術家協会会長

河 崎 良 行

昨年の英国のEU離脱以来、米国の大統領選挙など驚くべき現象が続き、特にトランプ政策はことごとく物議を醸し、世界中に波紋を広げている。不透明感のある変動の時代に移っているかのように感じる。

国内では2020年の東京五輪開催で何かと話題が多いが、本来のオリンピックはスポーツと文化の祭典といわれながら、文化面の話題は極めて低調である。わが国の文化行政はスポーツに比べるとあまりにも意識の低さがあり、国の文化予算はフランスの4分の1。韓国の2分の1にも満たないもので、おそまつな感は拭えない。

日本美術家連盟では「五輪の年には文化省を」とのスローガンでもって、文化省創設キャンペーンを実施している。政府は予算をしっかりと確保して、ぜひこの機会に日本の文化の魅力を発信してほしいと願っていることである。

また、オリンピック・パラリンピックの公式エンブレムに藍色を用いた「組市松紋」が採用され、県はこれまで「ジャパンプルーといえば阿波藍」と国内外に発信しているところであり、チャンス到来と阿波藍のロゴマークを作り、PR向けに広く利用してほしいと呼び掛けている。この敏捷な対応ぶりは感服もので、地方に埋もれている伝統文化などを海外にアピールするまたとない好機として生かしてほしい。

さて、例年の県美術家協会主催における3大行事である「第24回放美展」「第71回徳島県美術展」「第12回徳島県こども美術展」は、いずれも盛況裏に終えることができた。特に県展の県外審査員の講評も総じて好評であり、例年と同じく徳島の地域色のある作品に関心を示すとともに、他県の同様な美術展に比べレベルが高い作品が多いとのコメントをいただいた。

72回県展も会期を3期に分けたので各部門の展示スペースが広がり、美術展としての雰囲気も一段と向上した。特に展示周辺の空間を必要とする彫刻部門などでは、大作の出品が可能となり展示効果は一層高められた。

今年度の慶事としては、本協会の理事である坂本三千一さんが28年度徳島県文化賞を受賞されたことである。氏は県展やグラフィックデザイナー協会（JAGDA）などでプロとして長年活躍されて来たことが評価されたもので心からお慶びを申し上げたい。

また、同じデザイン部門の四十宮隆志さんがモスクワ・グラフィックデザイン国際ビエ

ンナーレに入選したとのこと、快挙でありグローバル化の進む世界で、美術もまたローカルではいられなくなった。今後とも国内外に向かって活動を続け、地域の活性化のためにも刺激を与えて欲しい。

悲しいお知らせとなりますが、当協会の元副会長西敏晴・南龍（瑞雙光章・日本社会文化功労賞）氏が昨年11月19日に88歳で逝去されました。長年、書家としてまた仁徳の高い指導者として多くの人に慕われ、県下の芸術文化向上にも貢献されました。ご遺徳を偲び心からご冥福をお祈りいたします。

最後になりましたが、徳島県、徳島新聞社、四国放送並びに美術家協会関係者の皆様に感謝の意を表します。

平成29年3月

徳島県美術家協会規約

昭和 23. 9. 12	規約制定	61. 6. 21	規約一部改正
32. 7. 14	新規約制定	平成 4. 6. 27	"
33. 4. 29	規約一部改正	6. 6. 25	"
42. 4. 23	"	10. 6. 27	"
46. 4. 29	"	23. 6. 4	"
47. 5. 29	"	24. 6. 9	"
49. 8. 22	"	25. 6. 1	"
52. 7. 23	"	26. 6. 1	"
56. 5. 5	"	28. 6. 4	"
58. 6. 5	"		

第1章 総 則

- 第1条 本会は徳島県美術家協会と称し、事務局を徳島市内におく。
- 第2条 本会は県内美術家の連絡を緊密にし県美術の育成発展をはかり美術を通じて県文化の向上につとめることを目的とする。
- 第3条 本会は徳島県に関係のある美術家をもって組織する。会員は次のいずれかの部に属する。
- ①日本画 ②洋画 ③写真 ④彫刻
⑤美術工芸 ⑥書道 ⑦デザイン
- 第4条 本会は目的を達成するために次の事業を行う。
- (イ) 展覧会 (ロ) 講習会 (ハ) 講演会
(ニ) 観光美術の振興 (ホ) その他必要な事業

第2章 役員および会員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
- 会 長 副会長(2名)
理 事(若干名) 監 事(2名)
- 会長、副会長、監事は総会で選出する。理事は各部会から5名以内推せんする。役員の任期は2年として留任をさまたげない。
- 第6条 本会は顧問、参与および名誉会員を理事会の推せんによりおくことができる。
- 第7条 会長は会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。監事はこの会の経理を監査する。
- 第8条 総会は毎年1回以上会長の招集により開き会計会務の報告、役員の選出、規約の改廃、その他重要事項の審議を行う。
- 総会は各部から選出した代議員によって構成し、出席代議員の過半数をもって議決する。代議員は30名以内の会員の部にあっては3名、31名以上の部にあっては、さらに10名毎に1名選出できる。ただし、最終端数の人員が算出された場合は、繰り上げるものとし1名を追加する。
- 第9条 理事会は必要に応じ会長が召集し総会の決議による会務および緊急事項を執行する。

第3章 部 会

- 第10条 各部に次の役員をおく。
- 部会長・委員(部会員数の3割以内)
部監事(2名)

役員は部総会で選出する。役員の任期は2年とし留任をさまたげない。

- 第11条 部総会は毎年1回以上部会長の招集により開き、会計会務の報告、役員の選出その他重要事項の審議を行う。

ただし、部の事情により、部委員会をもって総会にかえることができるものとする。

- 第12条 委員会は必要に応じ部会長が召集し部会務を執行する。

- 第13条 部会の決定事項中、各種事業を協会の名において行うときは、理事会の承認を必要とする。

- 第14条 各部の経費は部会1人当たり、1,750円とし、その他事業収益、寄付金をもってあてる。

第4章 経 費

- 第15条 本会の経費は会費、入会金、事業収益、寄付金その他をもってあてる。
- 第16条 会費は年額3,500円とし、入会金は1,000円とする。
- 第17条 会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

内 規

- 1 (監事)
監事は、基本的に規約第3条の順に従って、2部会が役員の任期期間をつとめる。
- 2 (総会の議長)
総会の議長は、規約第3条の順に毎回持ち回りでつとめる。

(参 考)

- ☆昭和23年9月12日 設立総会及び発会式を徳島市役所3階議事場で行う。事務局を徳島新聞社内に置く。
- ☆昭和24年5月3日 事務局を憲法記念館(徳島公園内の県立図書館)内へ移す。
- ☆昭和25年12月18日 協会パッチを選定(図案は鬼塚副会長)
- ☆昭和33年4月29日 今迄常任委員で運営していた協会の組織を部制を設けて、各部会長及び各部委員を選出する。協会運営は各部から選出された理事(3名~5名)によることとする。
- ☆昭和46年4月29日 6部(日本画・洋画・写真・彫刻・美術工芸・書道)のうえに商業美術(58年度からデザインに改称)が加わり7部組織となる。
- ☆平成23年6月1日 事務局を事務局長の住所に置く。

後援承認事務取扱規定

(趣 旨)

第1条 この規定は、徳島県美術家協会（以下「協会」という。）以外の団体が自主的、自発的活動として行う教育、文化及び美術等の各種行事に対して、協会が後援又は共催若しくは推奨（以下「後援等」という。）をする場合の承認事務の取り扱いについて、必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この規定においての後援とは、協会以外の団体が計画した行事に、協会が当該行事の奨励及び助長をすることをいう。

(基本的な留意事項)

第3条 協会が美術展等を承認する場合は、次の事項に留意しなければならない。

- (1) 「後援等を承認する」ということは「協会の名義使用を認める」ということであり、それだけに他に及ぼす影響等を十分考慮し、過誤のないようにすること。
- (2) 安易に後援等を承認すると、一般市民の誤解を招き協会の信用をそこなうこととなるので、慎重に取り扱うこと。

(行事の主催者)

第4条 協会が後援等を承認する場合の主催者は、次の各号の一に該当するものでなければならない。

- (1) 教育、文化など協会の7部門に関係した機関及び団体。
- (2) 国又は地方公共団体及びそれらの機関。
- (3) 教育、文化機関及び美術研究団体。
- (4) 公益法人（宗教法人を除く。）及びこれに準ずる公共的団体。
- (5) その他、協会が特に認めたもの。

(承認の基準)

第5条 協会が後援等を承認する場合の行事内容は、「教育、文化及び美術等の普及向上に寄与するもので、公益性のあるもの。」でなければならない。ただし、次の各号の一に該当するものは後援等の承認をしないものとする。

- (1) 政治的、宗教的中立性を侵すおそれのあるもの。
- (2) 特定の流派等で、協会の後援に適さないもの。
- (3) 営利又は売名（個人、団体を問わない。）の意図をもって企画されているもの。
- (4) 行事の企画、運営等が適切でないと認められるもの。

- (5) その他、協会が後援等をすることを不適当と認めるもの。

(後援等の申請)

第6条 行事の主催者は、協会に後援等の承認を得ようとするときは、徳島県美術家協会後援名義使用承認申請書（様式第1号）を原則として30日前までに提出しなければならない。

- 2 前項の申請書には、行事計画及び行事内容の記載を必要とする。また、その内容によっては、協会が必要書類の提出を求めることがある。

(承認決定の通知)

第7条 協会は、後援等を承認決定したときは、徳島県美術家協会後援名義使用承認通知書（様式第2号）により申請者（主催者）に通知するものとする。

(後援等の取消し)

第8条 協会は、後援等を承認決定した後に、当該行事が次の各号の一に該当したときは、後援等を取り消すものとする。

- (1) この規定の第5条の規定に接触することとなったとき。
- (2) 後援等申請書が虚偽の申請であったとき。
- (3) 承認決定の条件に違反し、協会の指示に従わなかったとき。

附 則

- 1 この規定は、平成24年6月9日から施行する。

徳島県美術家協会後援名義使用承認申請書

平成 年 月 日

徳島県美術家協会会長 様

申請者（主催者）

住 所 _____

団 体 名 _____

代表者名 _____ 印

電話番号 _____

次の行事について徳島県美術家協会の後援名義使用承諾を得たいので関係書類を添えて申請します。

新規 ・ 継続 （該当に○印をつけてください）

行 事 名	
開催日時（期間）	平成 年 月 日（ ）～平成 年 月 日（ ）
開 催 場 所 名	
開催場所所在地	
共 催 団 体 名	
他の後援団体名	
入 場 料	有（詳細を記入： _____） ・ 無
後援承認通知書 送付先住所氏名	〒 _____ 氏名
行 事 概 要 （行事計画及び行事内容などを記載してください）	

注 1） 共催団体名、他の後援団体名は予定のものも含めて記載してください

様式第 1 号

平成 27 年度事業報告

- (1) 総 会 ◇平成 27 年 5 月 31 日（日）13:30
◇あわぎんホール 5F 会議室
◇平成 26 年度事業報告及び決算報告
◇監事報告・承認
◇平成 27 年度事業計画及び予算審議
◇その他

(2) 第 23 回放美展

(3) 第 70 回徳島県美術展

(4) 第 11 回徳島県こども美術展

- (5) 関係会議 ◇ 4 月 17 日（金）17:30 第 1 回放美展運営委員会 四国放送
◇ 7 月 14 日（火）17:30 第 1 回徳島県展運営委員会 徳島新聞社
◇ 7 月 14 日（火）17:30 部会長会議 徳島新聞社
◇ 8 月 3 日（月）17:30 第 2 回徳島県展事務局員会議 徳島新聞社
◇ 11 月 16 日（月）17:30 第 2 回放美展運営委員会 四国放送
◇ 12 月 16 日（水）17:30 第 3 回県展運営委員会 徳島新聞社
◇ 2 月 2 日（火）18:30 部会長会議 徳島新聞社
◇ 4 月 10 日（日）13:30 美協理事会 県福祉センター
◇ 4 月 22 日（金）17:30 第 4 回放美展運営委員会 四国放送
◇ 6 月 4 日（土）13:30 美協総会 あわぎんホール

- (6) 各部会行事 ◇日 本 画 部 第 56 回新作日本画展（27.6.25 ～ 28） 阿波銀プラザ
◇洋 画 部 第 29 回洋画部会員展（27.7.2 ～ 5） あわぎんホール
◇写 真 部 写真部撮影会（27.6.21） 京都市内
◇デザイン部 県展 70 年デザインアーカイブ展（27.12.18 ～ 20） 阿波銀プラザ

- (7) 各種後援 ◎第 11 回記念 現代墨絵・彩墨画・日本画展 (27.4.3 ～ 5)
◎第 43 回 光輪社書作展 (27.4.10 ～ 12)
◎第 13 回 桐雲会書作展 (27.4.17 ～ 19)
◎第 16 回 ニッコールクラブ徳島支部写真展 (27.4.17 ～ 20)
◎第 6 回 鳴門水彩美学展 (27.4.24 ～ 28)

◎第 4 回 絵画教室アワ・アート作品展	(27.5.8 ~ 13)
◎第 33 回 徳島平和美術展	(27.5.15 ~ 18)
◎第 2 回 木田英之（塾）課題写真展	(27.5.22 ~ 24)
◎徳島アート 21 第 13 回展	(27.6.3 ~ 7)
◎第 38 回 写真同人「炎」作品展	(27.6.5 ~ 7)
◎第 38 回 八紅展	(27.6.11 ~ 14)
◎第 12 回 五果会書展	(27.6.12 ~ 14)
◎第 5 回 虹光会書展	(27.6.12 ~ 14)
◎第 32 回 青彩美術展	(27.6.18 ~ 21)
◎第 22 回 耿の会書作展	(27.6.19 ~ 21)
◎第 36 回 東光会徳島支部展	(27.6.19 ~ 21)
◎第 56 回 新作日本画展	(27.6.25 ~ 28)
◎第 3 回三塊書展	(27.6.25 ~ 28)
◎第 74 回 世代美術展	(27.7.9 ~ 12)
◎第 8 回（一社）二科会写真部 徳島支部展	(27.7.10 ~ 14)
◎第 11 回総合美術展	(27.7.18 ~ 20)
◎第 28 回 長玄書道会展 テーマ「季節」	(27.7.24 ~ 26)
◎徳島青澄 第 5 回翔和会かな書作展	(27.7.31 ~ 8.2)
◎四国大学書道文化学科 第 29 回教員展	(27.8.1 ~ 5)
◎手塚てる子絵画展 -青の階調Ⅱ-	(27.8.26 ~ 31)
◎第 4 回青藍会書作展	(27.8.28 ~ 30)
◎書道企画展「徳島県高校生 第 5 回 書道席書創作コンクール」	(27.9.1 ~ 12.31)
◎第 80 回書芸院展一百花繚乱一	(27.9.10 ~ 13)
◎第 71 回青美展	(27.9.10 ~ 13)
◎第 55 回写楽会写真展	(27.9.11 ~ 13)
◎第 6 回グルッポ・フォト 23 写真展	(27.9.11 ~ 13)
◎第 14 回一心会書展	(27.9.25 ~ 27)
◎第 10 回写真同人「光」写真展	(27.9.25 ~ 27)
◎第 19 回旺美展	(27.10.7 ~ 13)
◎木田英之写真展	(27.10.9 ~ 12)
◎第 21 回徳島障害者芸術祭 エナジー 2015	(27.10.20 ~ 25)
◎第 8 回徳島絵画美学展	(27.10.21 ~ 25)
◎第 4 回尚石会書展	(27.10.23 ~ 25)
◎第 30 回藍美展	(27.11.1 ~ 3)
◎創立 35 周年 第 20 回記念尚真書展	(27.11.6 ~ 8)
◎第 11 回吉野川市書人会作品展	(27.11.13 ~ 15)

◎第 45 回直心会書展	(27.11.13 ～ 15)
◎第 1 回つくしの会展	(27.11.13 ～ 15)
◎第 13 回徳島版画展	(27.11.19 ～ 23)
◎第 21 回六書会書展	(27.11.20 ～ 22)
◎第 19 回せせらぎ書展	(27.11.21 ～ 23)
◎第 45 回芳藍書道展	(27.11.21 ～ 23)
◎第 36 回臨池書展	(27.12.5 ～ 6)
◎県展 70 年・デザインアーカイブ展	(27.12.18 ～ 20)
◎第 7 回徳島北高等学校美術部書道部合同展	(27.12.19 ～ 20)
◎第 44 回歳末チャリティー作品・色紙販売展	(27.12.22 ～ 24)
◎第 48 回モダンアート徳島支部展	(28.1.14 ～ 31)
◎第 2 回松原健二個展	(28.1.27 ～ 2.2)
◎第 27 回愁美展	(28.1.29 ～ 31)
◎第 40 回記念東玄書道会展 -温故知新-	(28.2.5 ～ 7)
◎第 41 回四国大学書道文化学科卒業制作展	(28.2.11 ～ 14)
◎第 26 回美術文化徳島支部展	(28.2.11 ～ 15)
◎書道企画点 紙にこだわった書道展	(28.2.16 ～ 21)
◎第 36 回書研社展	(28.3.4 ～ 6)
◎沢口 功 アート展 2016	(28.3.7 ～ 20)
◎平成 27 年度徳島大学書道部・OB 会書作展	(28.3.11 ～ 13)
◎第 30 回記念 正鋒会書展	(28.3.11 ～ 13)
◎第 50 回書道研究 清潮書作記念展	(28.3.18 ～ 20)
◎第 47 回ナルトぴんぼけクラブ写真展	(28.3.18 ～ 21)
◎第 1 回 徳島玄心会書展	(28.3.25 ～ 27)

平成 28 年度 役員名簿

会 長	河 崎 良 行	理 事	薄 田 玲 泉
副会長	松 下 雄 介	〃	能 仁 華 瑤
〃	西 野 和 男	〃	田 中 一 郎
事務局長	上 野 照 文	〃	福 井 章
理 事	岡 英 彦	〃	坂 本 三千一
〃	長 谷 壽	〃	沢 口 功
〃	土 井 洋 子	顧 問	長 尾 弘 子
〃	土 方 るみ子	〃	櫛 渕 魏
〃	平 木 美 鶴		
〃	黒 崎 志 郎		
〃	露 口 敏 幸		
〃	田 中 シゲミ		
〃	西 川 周 三		
〃	上 野 照 文		
〃	橋 本 圭 祐		
〃	井 藤 光 章		
〃	林 敏 彦		
〃	増 田 寿		
〃	松 永 勉		
〃	鎌 田 邦 宏		
〃	井 下 俊 作		
〃	上 月 佳 代		
〃	七 條 猪三郎		
〃	多智花 佐代子		
〃	松 下 慶 一		
〃	犬 伏 絢		
〃	荒 井 彭 仙		
〃	隅 田 英 二		
〃	竹 田 和 代		

平成 28 年度 各部役員名簿

日本画部

部会長	岡 英 彦
委 員	長 尾 弘 子
〃	西 野 和 男
〃	長 谷 壽
〃	土 井 洋 子
〃	土 方 るみ子
〃	柳 田 一 子
監 事	中 西 芳 雄
〃	日 浦 猛 史
事務局員	日 浦 猛 史
〃	柳 田 一 子

洋画部

部会長	平 木 美 鶴
委 員	榎 田 務
〃	黒 崎 志 郎
〃	露 口 敏 幸
〃	長 尾 弘 久
〃	玉 田 秀 子
〃	田 中 シゲミ
〃	大 西 道 夫
〃	西 川 周 三
〃	伊 勢 浩 章
〃	嵯 峨 潤 三
〃	鈴 木 啓 子
〃	島 上 二 郎
〃	近 藤 克 子
〃	手 塚 てる子
監 事	田 中 シゲミ
〃	伊 勢 浩 章
事務局員	西 川 周 三
〃	田 中 シゲミ

写真部

部会長	上 野 照 文
委 員	櫛 渕 魏
"	橋 本 圭 祐
"	井 藤 光 章
"	林 敏 彦
"	増 田 寿
"	田 村 泰 弘
"	伊 達 照 子
"	大 和 健 司
"	森 住 博
"	川真田 慶 治
"	堀 口 幸 男
"	野 藤 みきよ
"	梅 本 貞 範
"	岩 崎 英 昭
"	平 野 史 子
"	賀 川 泰 広
"	船 越 正 文
"	大 津 勝 治
"	武 地 雅
"	土 橋 成 行
"	野 口 佳 一
"	三 木 理 司
"	森 内 昭 男
"	田 中 伸 廣
"	井 上 憲 治
"	阿 部 啓 三
監 事	田 村 泰 弘
"	森 住 博
事務局員	井 上 憲 治
"	阿 部 啓 三

彫刻部

部会長	松 永 勉
委 員	濱 口 惠
"	佐 藤 隆
"	井 下 俊 作
"	鎌 田 邦 宏
"	居 上 真 人
"	東 光 司
監 事	上 月 佳 代
"	武 田 亜希子
事務局員	松 永 勉
"	木 村 大 志

美術工芸部

部会長	多智花 佐代子
委 員	山 上 馨
"	七 條 猪三郎
"	矢 野 款 一
"	松 下 慶 一
"	森 賢 一
"	橘 惠
"	犬 伏 絢
"	藤 井 哲 信
"	田 村 栄一郎
"	松 本 宏
"	大 貝 貞 雄
監 事	森 明 治
"	斎 藤 和 彦
事務局員	森 賢 一
"	藤 井 哲 信

書道部

部会長	荒 井 彭 仙
委 員	東 南 光
"	伊 丹 東 龍
"	亀 石 文 苑
"	河 野 真 流
"	清 水 桂 月
"	島 田 小 園
"	春 藤 大 耿
"	薄 田 玲 泉
"	隅 田 英 二
"	武 市 鳴 雲
"	竹 田 和 代
"	多 田 清 芳
"	玉 城 乾 香
"	富 久 鳴 泉
"	中 尾 勝 子
"	長 原 皋 聖
"	永 松 春 苑
"	西 南 龍
"	能 仁 華 瑤
"	長 谷 美 峰
"	浜 佳 香
"	三 浦 富美代
"	美 馬 幾美賀
"	宮 井 青 雨
"	青 木 東 原
"	馬 居 汀 香
"	大 下 江 波
"	沖 田 唐 谷
"	川 上 虹 泉
"	河 野 多 美

委 員	川 村 春 琴
"	洲 崎 忠 峰
"	鈴 木 恵 理
"	高 田 青 蓮
"	高 柳 早 秀
"	谷 口 清 水
"	花 本 清 香
"	福 永 美 泉
"	藤 村 柳 葉
"	丸 岡 春 暁
"	南 溪 石
"	八 木 藍 玉
"	吉 田 翠 彩
"	赤 川 景 舟
"	東 弥 生
"	井 上 虹 雨
"	上 田 輝 芳
"	内 田 麻 紀
"	阿 部 博 子
"	岡 島 順 子
"	加 村 喜美子
"	河 野 静 江
"	倉 本 景 雨
"	下 村 清 子
"	鈴 江 美音子
"	中 谷 史 子
"	西 谷 香 峰
"	藤 原 育 代
"	宮 守 崇 流
"	向 井 京 子
"	森 光 翔
"	山 本 景 琴

委 員	朝 三 皐 如
"	岩 本 志 豪
"	大 西 清 葩
"	岡 崎 啓 香
"	川 端 康 清
"	岸 緑 香
"	幸 田 清 尚
"	芝 原 醒 鶴
"	高 瀬 大 峯
"	玉 城 乾 舞
"	仁 木 志 香
"	平 岡 幽 琴
"	丸 田 恵 風
"	森 本 成 玉
"	山 口 幽 径
"	日 下 溪 翠
"	林 桂 翠
監 事	山 口 華 城
"	前 川 古 舟
事務局員	長 原 皐 月
"	林 美 雪

デザイン部

部会長	田 中 一 郎
委 員	坂 本 三千一
〃	福 井 章
〃	沢 口 功
〃	敷 島 のり子
〃	吉 本 實
〃	北 島 豊 嗣
〃	四十宮 隆 志
〃	西 林 良 枝
〃	斎 藤 剛
監 事	山 内 典 子
〃	佐々木 奏 美
事務局員	吉 本 實
〃	四十宮 隆 志

第 24 回放美展記録

会 期 平成 28 年 5 月 2 日（月）～ 6 日（金）

時 間 10：00～17：00（入場は 16：30 まで）

会 場 あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

日本画

〔審査員〕	岡 英彦	土井 洋子	土方るみ子		
〔放美賞〕	富永 博子				
〔優秀賞〕	竹田 彩夏				
〔四国大学賞〕	広瀬 優				
〔梅岡トヨ賞〕	保岡 綾				
〔入 選〕	水田 貴子	中川 敬	中嶋 昌子	鈴木 恵子	井上美恵子
	久保 守近	植田 忠生	石崎 菜穂	野田 瑞貴	
	はたやまあやたろう	山口 愛子			

洋 画

〔審査員〕	平木 美鶴	田中シゲミ	嵯峨 潤三		
〔放美賞〕	鈴江空里子				
〔優秀賞〕	杉本 祥子	竹原 良亮	田中 達也	堀江 幸子	岩井 春美
	西條 敏夫				
〔四国大学賞〕	笠原 三奈				
〔梅岡トヨ賞〕	野口 佳音				
〔入 選〕	岩井 千晴	櫻木 直美	白草 由子	武田 洋子	後藤 和子
	小笠原秋子	眞鍋たえ子	賀川紀美子	米沢 博	大坪潤一郎
	米津 良子	丹生 照子	林 敏雄	馬淵 博子	前川フキ子
	中筋奈津子	日野 邦恵	林 静代	遠藤公美子	森本 操

黒島 貞子	田中千恵子	阿部 昌子	為実美恵子	林 茂子
東 朗	坂東 悦子	山口 明美	富永トモ子	西沢 幸広
西村 数美	藤川佐由美	井関久美子	小笠 正明	武富 直子
高木 宏	谷 慎也	田中 敏雄	横井嘉世恵	島 知里
田和 穂香	西尾 成子	福本 恵	住友 政雄	篠原 彩香
天本 愛子	土橋 正子	松尾 宏一	横畠 寛	野上 恵子
中内あい子	岡崎 恵	磯崎 素子	答島 和年	村川 千代
大久保佐智子	日下 泉	森 朱音	西田 遥	小西裕一朗
濱田 将輝	中川 真緒	岡田 典子	吉田 玲子	坂東 弘子
橋本いずみ	礎 有希	埴渕 照二	渡邉 茜	多川 彩香
佐竹 菜花	坂東美瑞穂	吉 田 美卯	石川ひかる	内藤こすも
松野 純也	高林 泉水	二階千鶴子	中村 由春	鈴木 敬子
篠原 稔				

写 真

[審 査 員]	橋本 圭祐	増田 寿	大和 健司		
[無 鑑 査]	田中 伸廣	川西 明雄	多田 進	島 廣幸	大西 啓子
[放 美 賞]	板東よしお				
[優 秀 賞]	幾田 茂仁	野藤みきよ	武田 幸代	板東美智代	水口 ゆみ
	鈴江 純史	泉 清美	福井 純子	山上 道子	熊谷美智子
	圓藤由貴子	山下 修司	増田 実	三谷美津子	高橋 一恵
[四国大学賞]	大野 元幹				
[梅岡トヨ賞]	三木 康代				
[入 選]	幾田 茂仁 ⁽²⁾	笹賀 正弘 ⁽²⁾	喜多 昌弘	大野 元幹	富岡佳代子 ⁽²⁾
	野藤 敏美 ⁽³⁾	野藤みきよ ⁽²⁾	堤 信寿 ⁽²⁾	河野 俊文	平澤 澄子
	平澤 昭世 ⁽²⁾	武田 幸代	中村健二郎	福居 幹夫 ⁽²⁾	篠原 治雄
	水口 ゆみ ⁽²⁾	谷 嘉明 ⁽²⁾	井口 洋明	南 敦子	橋口 久馬
	鈴江久美子	山口 正明	泉 清美	塩江 優	佐藤 義雄

中村真智子	原田 章一(2)	四宮 清文	春田 操	岸田 義市(3)
松家 安信	三原 弘枝(2)	森住 孝義	辺見 博子	久保 朋也
滝畠 豊美	板東よしお	福井 純子	鍋島治世子	郡 英明
野村 和夫(2)	高木 信昭	常陸 章	松崎 真弓	近藤 俊興
森崎 茂(2)	脇 俊二	松村久美子	岡田 政子	山下 助信
橋本 雅子(2)	長岡 和美	吉田 隆之(2)	山上 道子	野田 賢
今出 弘	熊谷美智子(2)	秋山 修一	阿部 美昭	喜多 省三
岡本 早苗(2)	西岡まゆみ(2)	大栗 隆夫	佐藤美智子	遠藤 博敏(2)
池田 啓子	原 和夫	福井 邦博	廣野美知子(2)	安丸 弘二
谷 ひづる(3)	圓藤由貴子	庄野 和博	長田 貞男	加藤 千明(2)
姫野 博司(2)	小原 英児(2)	林 好一	高見喜美男	山下 修司
おどみ岐調	宇治 英壽	竹内 好文	中山 洋三	久米三恵子(2)
高曽根信義	大西 忠	吉井 夢女	中山 智世	吉田 萌華
有馬 正司	田村 清憲	三谷美津子	高橋 一恵(2)	西岡 祥一

彫 刻

[審査員] 松永 勉 上月 佳代 長岡 強

[無鑑査] 大貝 寿子

[放美賞] 大貝 貞雄

[優秀賞] 横畠 寛

[四国大学賞] 岡田みなみ

[梅岡トヨ賞] 奥 敬嗣

[入 選]	阿部まきみ	筒井 豊	佐治 孝	林 一美	古野 紗英
	佐々木瑞穂	吉田 陽子	成田 浩彰	埴渕 照二	檜 恵理香
	小幡ななみ	垣本 彩絵	岡田みなみ		

美術工芸

[審査員]	多智花佐代子	松下 雄介	斎藤 和彦		
[無鑑査]	大貝 寿子	大貝 貞雄	松本 宏		
[放美賞]	手塚 健一				
[優秀賞]	近藤佐起江	松永 卓司	家形笑美子	前川 政秀	中島美和子
[四国大学賞]	長谷川正龍				
[梅岡トヨ賞]	小原 愛里				
[入選]	小林 清重	三橋 玄児	石井 春夫	田中木美子	阿部 能則
	川島 千鶴	小松 茜	板東 啓子	四宮 千代	美馬 吉彦
	平尾 静子	遠藤 勇	遠藤 好子	筒井 節子	長尾賀代子
	平瀬 進也	高田 彰一	手塚 健一	大草 幸子	戸島 裕明
	河野 和代	武田 潤子	北町 裕子	原田 明子	村川 榮一
	藍原 房補	下内 良一	高瀬 裕司	向 紫	島田 良子
	藤中 教代	吉野 由紀	清水 久子	宮本 薫	小川 光
	松本みづる	横井嘉世恵	遠藤 舞花	岸 美沙起	小山有沙妃
	島田 千乃	瀬尾いつみ	青木 壽美	巽 安子	尾藤 芳尚
	松本 梨江	長尾 敏子	森 克江	阿部まきみ	真田八重子
	毛利 貴子	井上 英子	河野 美枝	中川 洋子	藤崎 豊子
	住 廣子	小倉智恵美	東條 容子	伊藤エミ子	前野 亮治
	村上 綾子	小林 徳子	岡本亀代子	日高 琴美	井手 英子
	高島 悦江	上田 優	山村 明敬	石井 和男	西内 貞二
	前川 政秀	中西 達也	中川 澄男	眞鍋 謙弘	久保 英樹 ⁽³⁾
	木村 秋夫	坂本 憲治			

書道

[審査員]	隅田 英二	富久 鳴泉	日下 溪翠
[放美賞]	田村 元帥		

〔優 秀 賞〕	上野 益泉	西 朱理	石川 翔子	徳前 郁恵	渡辺 早紀
	村田 苔石	春川 青超	坂尾 竟成	草苺 明美	
〔四国大学賞〕	後藤真里奈				
〔梅岡トヨ賞〕	栗尾 奈那				
〔入 選〕	益岡 輝実	井元 翠葉	松岡 正峰	下藤 朱莉	辻 光石
	斎藤千代子	清水 芳雲	木内 暎光	井野 恵風	丸岡 真弓
	瀧 こなみ	小出真優子	豊口ほのか	高橋 優実	福永 優
	守田 禎香	深薮 美雪	新瀧 啓歩	吉田千奈美	田中 杏奈
	後藤田妙子	田中 玲子	満村 泰子	斎藤 節子	久保 抱雲
	手塚 浩美	西改 俊子	近藤 綾香	佐滝 泉月	大和 公代
	妹尾 紅雲	井内 城雲	大倉 花菜	岸田 紗奈	小原 楓
	四宮 可苗	藤本 小春	安部絵梨奈	内田 美子	沖 彩花
	古田真由美	丸山 柚佳	山添 彩華	吉本 真由	佐竹 夏実
	池内 愛美	柳本 真苑	披田 壤	寺内 真優	尾崎 里奈
	佐藤 榛花	四宮 花奈	山本 桐也	中西 之桐	矢部 育実
	組屋 雄紀	福田 真由	新田 梨乃	檜原 誉	前田 珠里
	平田 貴子	藤本 紗織	来代 美香	田村侑里菜	山本理紗子
	畠内 陽菜	日下 彩	山本 采弥	中村 絢子	大胡恵里香
	長崎 香春	前川わかな	井内 清月	仁尾 みや	友廣 佳奈
	高島 夏花	梯 瑚子	若林 美紀	佐藤由紀代	義富 博正
	小野 宙成	原田 理絵	高瀬 大峯	正見 千恵	幸田 清尚
	川端 康清	森本 成玉	今治 宏美	川下 芳婉	児玉 幸子
	川又 晃容	大石 康正	島川 準司	西谷 香峰	兼松 好恵
	今田真梨子	宮崎 弘子	賀上 宝子	七條あかね	東條 有里
	板東 杏樹	伊藤 景風	大西 敏代	寒田 祐奈	杉本 智子
	町田 哲子	古川 和美	湯浅 和		

デザイン

〔審査員〕	坂野美恵子	敷島のり子	四十宮隆志		
〔無鑑査〕	佐々木奏美				
〔放美賞〕	定國 茉奈				
〔優秀賞〕	松島 早紀	村田佳奈子	田村 あい	山本 真子	山野井宏宗
〔四国大学賞〕	島田 千聖				
〔梅岡トヨ賞〕	石川 由佳				
〔入選〕	林 敏雄	島田 実怜	久積 麻里	田中見那美	小村 智美
	三木理紗子	奥谷 暁李	新居 真林	前畑ほなみ	岡田 典子
	社頭 茉央	松永 拓也	白石 莉子	前野 瑞希	黒田 志歩
	南 絵里佳	村井 七瀬	埴渕 照二	濱 怜爾 ⁽²⁾	粟飯原倫佳
	河野 瞬生	松本 美桜	藤井 香菜	武林 莉杏	三浦有友奈
	住友 亜美	森 万記	板東菜都子	濱田 夏菜	杉本 早
	中飯 美花	松下穂乃果	鳥井 衣里	山根歌央里	吉本 美嶺
	長濱 綾花	高井 奈穂	住友 月美	岡田 亜実	

第 24 回放美展出品・入選等状況

部門 区分		日本画	洋 画	写 真	彫 刻	美術工芸	書 道	デザイン	計
出 品 点 数		22	162	367	24	130	221	123	1,049
出 品 者 数		22	142	147	21	93	184	112	721
入 賞 ・ 入 選	放 美 賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	優 秀 賞	1	6	15	1	5	9	5	42
	梅岡トヨ賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	四国大学賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	入 選 数	11	81	126	13	79	108	40	458
	計	15	90	144	17	87	120	48	521
	入 選 率	68.2	55.6	39.2	70.8	66.9	54.3	39.0	49.7
選 外	落 選 数	7	72	223	7	43	101	75	528
	落 選 率	31.8	44.4	60.8	29.2	33.1	45.7	61.0	50.3
無 審 査 出 品	審 査 員	3	3	3	3	3	3	3	21
	無 鑑 査	0	0	5	1	3	0	1	10
	計	3	3	8	4	6	3	4	31
展 示 数		18	93	152	21	93	123	52	552

第 24 回放美展公募規定

区分	部門	日本画	洋 画	写 真	彫 刻
書類受付期限		平成 28 年 4 月 9 日 (木)			
搬入日		平成 28 年 4 月 29 日 (水・祝)			
搬入場所		あわぎんホール (県郷土文化会館) 3 階展示室			
審査日		平成 28 年 4 月 29 日 (水・祝)			
審査員		岡 英彦 土井 洋子 土方るみ子	平木 美鶴 田中シゲミ 嵯峨 潤三	橋本 圭祐 増田 寿 大和 健司	松永 勉 上月 佳代 長岡 強
出品料		1 点目 3,000 円 2 点目・3 点目各 1,000 円 高校生・高専生は 1 点 1,000 円			
応募資格・出品制限等		・未公開作品に限る ・高校生以上 ・県内外不問 ・作品のみ送付は不可 ・1 人 3 点以内			
		・最小：額縁の幅を除く画面が 70cm × 47cm 以上 ・最大：額縁を含む縦、横の一边が 130cm 以内 ・額装 ・裏面に吊り紐 ・アクリル・ガラス等で画面を覆わない	・最小 20 号 (版画は最小 10 号) ～最大 50 号以内 (ただし S 型は 30 号が上限) ・アクリル・ガラス等で画面を覆わない (ただし、水彩画、版画はアクリルに限り可) ・額装 ・吊り紐	・単写真・組写真とも半切及び A3 から全倍サイズで、画面の長辺が 40cm 以上 90cm 以内 ・スクエアサイズ (正方形) は 1 辺が 30cm 以上 50cm 以内 ・組写真は 1 パネル (90cm × 180cm 以内) に全作品を固定 ・作品はパネル貼りし、額装は禁止 (ガラス、アクリル装着、金属、プラスチック、木材などによる枠取り不可)	・あわぎんホール (県郷土文化会館) のエレベーターに収容可能な大きさ ・100kg 以内 ・展示に危険を伴わないもの
入 賞		・放美賞 各部門 1 点 ・優秀賞 出品点数 25 点につき 1 点 ・梅岡トヨ賞 各部門 1 点 (高校生・高専生の入選者から選出) ・四国大学賞 各部門 1 点 (25 歳以下の入選者から選出)			

区分	部門	美術工芸	書 道	デザイン
書類受付期限		平成 28 年 4 月 9 日 (木)		
搬入日		平成 28 年 4 月 29 日 (水・祝)		
搬入場所		あわぎんホール (県郷土文化会館) 3 階展示室		
審査日		平成 28 年 4 月 29 日 (水・祝)		
審査員		多智花佐代子 松下 雄介 斎藤 和彦	岡田 英二 富久 鳴泉 日下 溪翠	坂野美恵子 敷島のり子 四十宮隆志
出品料		1 点目 3,000 円 2 点目・3 点目各 1,000 円 高校生・高専生は 1 点 1,000 円		
応募資格・出品制限等		・未公開作品に限る ・高校生以上 ・県内外不問 ・作品のみ送付は不可 ・1 人 3 点以内		
		・木・竹・金工・陶磁・漆・染色・織物・人形・ガラス等 ・平面作品は縦 180cm × 横 150cm 以内 ・展示可能な用具を必ずつけ、前後がわかるように明示すること	・0.85 平方 m 以内 (例 / 半切、半切 + 半切 4 分の 1、全紙 2 分の 1) ・額装 ・裏面に吊り紐 ・申込書に種別を、裏面に釈文を記載のこと	・グラフィックデザインに限る ・B1 サイズ (728mm × 1,030mm) で厚さ 5mm から 75mm 以内、外枠 (幅 20mm 以内) を含めた重さが 5kg 以内 ・ガラス額装は不可 ・実在の商品名、会社名の使用は不可 (著作権、肖像権に抵触しないこと) ・裏面に吊り紐
入 賞		・放美賞 各部門 1 点 ・優秀賞 出品点数 25 点につき 1 点 ・梅岡トヨ賞 各部門 1 点 (高校生・高専生の入選者から選出) ・四国大学賞 各部門 1 点 (25 歳以下の入選者から選出)		

- 注 1) 入選数は出品点数に応じでの規定数とする
 2) 選外作品及び展示作品は各部門の決められた日時までに搬出すること
 3) 所定の期日までに搬出しなかった作品は出品者の送料負担 (梱包料金を含む) で返送する

第 71 回徳島県美術展記録

会 期 第 1 期 平成 28 年 10 月 7 日 (金) ～ 12 日 (水) 日本画・洋画・彫刻
 第 2 期 平成 28 年 10 月 14 日 (金) ～ 19 日 (水) 写真・美術工芸・デザイン
 第 3 期 平成 28 年 10 月 21 日 (金) ～ 26 日 (水) 書道
 時 間 9:30 ～ 17:00
 会 場 あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)

日本画

[審 査 員] 中野 嘉之
 [特別出品] 西野 和男 岡 英彦
 [招 待] 土方るみ子 土井 洋子 中西 芳雄 日浦 猛史 柳田 一子
 [無 監 査] 反田 卓 森崎 雅子
 [特 選] 坂 容子 (徳島県知事賞)
 西岡 ちほ
 [準 特 選] 梶浦 千瑞 大塚さや香 吉村 敬子
 [奨 励 賞] 水田 貴子 中嶋 昌子 中川 敬
 [入 選] 宮越 千佳 植田 忠生 久保 守近 武田 寛子 天羽 弘毅
 秋月ヒサヨ 富永 博子 井上 弘子 井上美恵子 鍋島治世子
 石原 千鶴 岩木 寿美 澤 真弓 泉 福美 岩脇 恵子
 新居麻里子 清水佳代子 後藤田 実 藤井 吉信 谷 尚武

洋 画

[審 査 員] 久野 和洋
 [特別出品] 梶田 務 平木 美鶴
 [招 待] 清水 亟悞 露口 敏幸 長尾 弘久
 [賛助出品] 黒崎 志郎 松川 寛 中辻奈美枝
 [特 選] 玉田 秀子 (徳島県議会議長賞)
 坂東 悦子 日野 邦恵
 [準 特 選] 林 敏雄 杉本 祥子 西川 周三 藤本 誠子 浅井 清司
 谷 慎也
 [奨 励 賞] 佐竹 菜花 遠藤 誠一 梅津美砂代 岩井 春美 鈴江空里子
 [入 選] 鈴木 敬子 大津 憲文 答島 和年 浦川 起世 小笠原秋子

松野 純也	広瀬 直	橋本いずみ	天本 愛子	押栗 洋子
和田 寿子	林 伸也	福本 恵	田和 穂香	島田 実怜
平木 雅代	富岡 晴恵	大坪潤一郎	永野 耕一	竹原 良亮
末次希生子	河野 真央	多川 彩香	三谷ミヤ子	坂東美瑞穂
石川ひかる	久米 政雄	林 静代	田中 敏雄	埴渕 照二
前川フキ子	宮田 京子	西沢 幸広	田中見那美	真柴 保男
佐々木公子	富本 勝子	眞野 尚枝	石山 彰子	手塚 充子
岩井 千晴	大久保芳和	米沢 博	前田みのる	坂東 富恵
賀川紀美子	笹田 義宏	東 紀美子	谷口 克子	富浦 道子
大南 芳子	塚井 一夫	佐藤 敬子	犬伏美智子	松本 勇夫
福良 哲子	富田 君子	西條 敏夫	平山 倫子	橋本 浩史
岡田 典子	田中シゲミ	手塚てる子	横畠 寛	姫田 正義
西川 敬子	中内あい子	田中 康子	藍谷 浩平	櫻木 直美
田浦 佳江	小泉たか子	横関 義弘	早内 陽子	喜瀬 玲奈
岡崎 恵	山口 明美	河本多恵子	島津 千尋	宮本 典子
中村 恵一	萩原 典子	出張 徳夫	阿部 昌子	高橋 照子
眞鍋たえ子	桑田 育子	吉岡 厚子	久保 和子	川上 晴美
田中千恵子	米津 良子	花待 昭文	市原 幸子	大松智恵子
渡辺 澄恵	橋本 健男	渡辺カツコ	小川 松枝	阿部 幸子
嵯峨 潤三	榊 和也	吉田 玲子	後藤 和子	伊勢 浩章
中村 俊夫	浅野 近男	高木 宏	岸本 花子	黒島 貞子
遠藤公美子	細谷 孝子	長尾賀代子	武田 洋子	中村ヨシノ
為実美恵子	馬淵 尚子	松下 総子	大場 孝一	石幸 忠雄
近藤 栄克	前川 富子	天野 利明	土橋 正子	阿部 末美
小笠 正明	小倉健太郎	菊本 静子	仁木 英子	長坂 芳子
黒川 彰子	加川由紀子	二條 均	藤本 千秋	天野 功治
高橋 幸二	藤井 博之	丹生 照子	八木 聡悟	岡本真貴子
花菱 良一	大西 文代	川口 均		

写真

[審査員] 三好 和義

[特別出品] 櫛渕 魏

[招待] 木田 英之
林 敏彦

上野 照文
勝西 雅夫
古井 謙吉

三好 和義
森 賢一
井藤 光章

橋本 圭祐
増田 寿

前浦 芳久
柳本 正

	大和 健司	船越 正文	堀淵 完治	岩崎 英昭	久保 英樹
	堀口 幸男	森住 博			
[無 監 査]	平野 史子				
[特 選]	福永 豊	(徳島県教育委員会教育長賞)			
	国見 良幸	藤本 良輔	多川 静守		
[準 特 選]	山下 修司	姫野 博司	秋山 修一	水口 義行	吉村 敏嗣
	須原 仁志	大塚 尚	竹内 好文	増田 実	
[奨 励 賞]	日浦 嘉孝	谷 ひづる	水口 ゆみ	大和 章人	阿部 啓三
	脇 俊二	大津 勝治	長田 貞男		
[入 選]	宮本 幸治 (4)	木内 正大	遠藤 博敏 (2)	鳥井 敬一	高曽根信義
	秋田 召旨	国見 良幸	寺内 靖	山口 正明 (2)	城田 清志
	大和 章人	川眞田慶治	櫛渕 紳哉	住友 登	川口 進
	林 好一	増田 実 (2)	多川 静守	田村 清憲 (2)	石本 隆二
	鎌田 克臣 (2)	高木 信昭 (2)	岸田 義市	齋藤 幹夫 (2)	幾田 茂仁 (3)
	四宮 清文	中山 洋三 (2)	大島 茂信	阿部千代恵	阿部 啓三 (2)
	古字 智子 (2)	井上 秀人 (2)	三谷美津子	廣野美知子	笹賀 正弘
	板東よしお	池田 啓子	新居 庚	野口 道子	須原 仁志
	小原 英児	谷 賢太郎	佐藤美智子	住友 徳	福井 純子
	久保 祐一	板東 泰雄	稲井 建司	山田 卓	野村 和夫
	川西 明雄	森 光	宮前 稔	水口 義行	佐野 和史 (2)
	南 敦子	佐藤 和良	喜多 昌弘	柴田敬二郎	勝瀬 彪
	大塚 尚	山上 道子 (2)	谷 嘉明	熊谷美智子 (3)	岡本 早苗 (2)
	福永 豊	古岡 友子 (3)	田中 伸廣 (2)	松浦 孝	森 芳雄 (2)
	前川わかな	橋本 博美 (2)	柏原 史郎	山下 修司	福原 敏雄
	野田 賢	福田 勉 (2)	山田 喜吉	賀川 泰広	鈴江久美子 (3)
	加藤 千明	宇治 秀壽 (2)	武地 雅	板東美智代 (2)	竹内 好文
	谷崎 泰司	氏師 敏晴	井口 洋明	姫野 博司 (2)	山下 助信
	鍋島治世子	辺見 博子 (2)	斎藤 幸子	埴淵 節子	庄野 和博
	米澤 正博	森住 孝義	秋山 修一	鈴木 雅則	田中 栄子
	久米三恵子	中野 久世	高橋 一恵 (2)	野藤 敏美	野藤みきよ
	森内 昭男	大津 勝治	三木 理司	田村 泰弘 (2)	

彫 刻

[審 査 員] 木戸 修

[特別出品] 河崎 良行 佐藤 隆 松永 勉

[招 待]	井下 俊作	鎌田 邦宏	居上 真人	上月 佳代	
[賛助出品]	長岡 強				
[特 選]	武田亜希子 (徳島市長賞)				
[準 特 選]	岡田みなみ	東 光司			
[奨 励 賞]	横畠 寛	トラビス・フリンク			
[入 選]	二宮 治夫	武田亜希子	吉田 陽子	小林 正則	大貝 寿子
	筒井 豊	高丸 公相	毛登山歩生		

美術工芸

[審 査 員]	中井 貞次				
[特別出品]	七條猪三郎	松下 雄介	多智花佐代子		
[招 待]	松下 慶一	森 賢一	橘 恵	犬伏 絢	斎藤 和彦
	森 明治				
[賛助出品]	中川 存	矢野 款一			
[特 選]	藤井 哲信 (徳島新聞社長賞)				
	越 由子				
[準 特 選]	家形笑美子	田村栄一郎	福本美智代	久保 英樹	
[奨 励 賞]	長尾 敏子	長谷川正龍	前野 亮治		
[入 選]	中西 達也	吉田 陽子 (2)	松本みづる	手塚 健一 (2)	宮本 薫
	四十宮年代 (2)	妹尾 文子	平田志保子	長尾 敏子	大貝 寿子 (2)
	高瀬 裕司 (2)	藤中 教代	河野美和子	小松 茜	板東 啓子 (2)
	島田 良子	遠藤 好子	阿部 能則	原田 明實	横井嘉世恵
	上田 優	平尾 静子 (2)	西澤 淳子	丸居 哲雄	喜多 岩夫
	細川ひとみ	篠原 安雄	島田 弘美	近藤美佐子	柴 純代
	谷口 武平	松原 敦子	池淵 節子	山村 明敬	小森 久子
	大貝 貞雄 (2)	大谷 聖子	武田 潤子	筒井 節子	亀井 良子
	石井 春夫	石田 節子	松本 宏	穴山千代子 (2)	森本 静子
	内藤 久子	高橋 正昭	原田 明子	田村栄一郎	三橋 玄児
	清原 真弓	高田 徳一	鮎合 秀子	梶原 浩二	田中木美子
	四宮 千代	久保 英樹	近藤佐起江	山本 由実	河野 美枝
	小林 清重	眞鍋 謙弘	鳥井 明子	下内 良一	梅山 博司
	村川 榮一	梶本 雅樹	元井 真紀	藤井 哲信	松永 卓司
	尾藤 芳尚	徳村 薫	戸島 裕明	長尾賀代子	斎藤 康男
	佐治 孝	西内 貞二	勇 絹江 (2)		

書 道

[審 査 員]	西嶋 慎一	山根 亙清	渡部 會山				
[特別出品]	西 南龍	春藤 大耿	荒井 彭仙				
[招 待]	宮井 青雨	長原 皋聖	芝原 醒鶴	清水 桂月	美馬幾美賀		
	中谷 史子	長谷 美峰	川上 虹泉	日下 溪翠	岡島 順子		
	竹田 和代	山口 華城	藤若 美風	武市 鳴雲	中尾 勝子		
	富久 鳴泉	永松 春苑	島田 小園	坂本 霄風	浜 佳香		
	隅田 英二	多田 清芳	玉城 乾香	薄田 玲泉	能仁 華瑤		
	高田 青蓮	三浦富美代	宇山 泰鳳	亀石 文苑	岩本 志豪		
	林 桂翠	山口 幽徑	米澤 東籬	戸出 芳泉	平岡 幽琴		
[無 鑑 査]	宮守 崇流	上田 輝芳	高瀬 大峯	玉城 乾舞			
[贊助出品]	東 南光						
[遺 作]	前川 古舟						
[特 選]	富永美知子 (四国放送社長賞)						
	美馬 治	郡 秋江	矢部 知子	福家 佳余	加村喜美子		
	詫間 勝子	岸 緑					
[準 特 選]	石井 瞳	佐々 京子	若木 恭子	山城美三子	田中 偉嗣		
	蓑毛 真琴	田岡佐記子	背川 章子	田村富士子	向井 京子		
	遠藤玻都恵	武田 淳子	井内 梨加	村田 泰輝			
[奨 励 賞]	吉田 幸代	中村 美子	吉田 鈴子	立石 充	林 みゆき		
	四宮 仁美	内田 麻紀	森 裕美子	吉田 恵子	岩田美由希		
	岡崎 啓子	川端喜美子	島尾 明良				
[入 選]							
漢字の部							
	亀川 遥加	佐渡 佳子	清水 千鶴	畠山ゆかり	佐藤 美和		
	吉田 幸代	土井 和也	久米 利典	川村 真澄	南 知枝		
	西野 道夫	伊達 知美	粟田 正治	上田美千代	北村 浩子		
	花本ふくみ	本庄たゑ子	三谷 展子	小笠 英文	斎藤千代子		
	清水 宏子	島 利子	藤澤 俊文	松永 浩子	石川 房子		
	坂田 貴子	若江 智	盛 知子	石川 翔子	近藤 紀子		
	池内 愛美	宇良 樹希	巽 祐子	仲井真歩加	泉川真理子		
	山口 幸子	後藤 郁子	牧野ヨシミ	丸岡 由美	永岡ツタエ		
	村田登志子	東條 裕子	新見 明子	斎藤 裕子	澤本 鈴美		
	籙 品子	中尾三智子	山内希与子	河野久美子	吉平 順子		
	中西 克之	仁木 輝実	岡 幸江	米倉由加里	谷 弘美		

尾形三千代	森本 裕子	吉村 敬子	河野 由紀	安友 彰子
大塚 洋子	阿部 千明	西岡田さつき	青木 博美	鎌谷 幸代
熊代 厚子	鳩成 広美	後藤 紀代	森 和子	堀江 孝己
長井あゆみ	矢部 育実	春藤 真紀	柏尾美恵子	田上 洋子
馬居美智恵	山下弥栄子	中西 淑子	片山 芳明	井上 公子
稲井 知子	鈴木エリ子	小西 泰子	馬木 洋子	宮脇 郷子
賀上 宝子	寺田 美穂	八木 澄江	井野めぐみ	後藤田美智恵
妹尾 寛子	井元 京子	井内 久子	河野多美子	竹内 綾菜
岡部ひとみ	森本 晃奈	島 智子	伊達三智子	一宮 明美
板東 一男	恵美 恵子	田中 利子	高橋 信子	佐野 陽子
磯川 味佳	多田みどり	大本由紀子	寺澤久美子	立石 泰生
瀬山奈緒美	仁木 福代	近藤 慶子	江瀨 邦子	山中 佳子
小倉 知子	佐滝 明世	益岡 輝実	森川のぞみ	三好 啓子
田村 元帥	田中 育子	金田 誠	谷本 洋子	田浦 瞳
辻 尚子	市原 美希	稲木 裕美	坂東加奈子	谷本真由美
中村 絢子	藤永 真里	田中 玲子	野口 有香	後藤田妙子
斎藤 節子	森本真由美	柳本 真弓	四宮 恭子	中川恵美子
笠原 笑子	宮本 暁美	西改 俊子	岡本美津代	大下 富江
村部 幸子	大野シゲ子	久積富美子	折野 茂幸	陶久 房枝
杉本 妙子	奥田 文子			

篆刻の部

田淵 勲	奥谷キクヨ	竹内やす子	仁木恵美子	松村 史子
森上佳衣子	横田 雅夫	射場 博子	大西 英徳	青木 幸代
吉村 敬子	小林 義治	田村 憲正	中尾三智子	渡邊 浩樹

仮名の部

内田美代子	長尾 美希	畠山 政子	吉田 好孝	尾田 知恵
平田 晶子	中川 年代	坂本 恵美	日下壽美子	金磯李可子
藤井三樹子	佐藤 一美	今津 英子	根木屋和代	高木美賀子
有持恵美子	土佐 朱美	菖蒲 和代	笠原小夜子	山橋不二子
濱井 光代	篠賀 知代	三好 育子	濱口 恵	稲井由加里
和泉かず子	堀江奈菜子	三宅 葉子	平尾 卓美	脇坂 優
糀 真理子	齋藤 弥生	矢部 育実	山本 愛美	寺尾 俊通
古谷 和代	森崎佐和子	坂本 敬子	島田 利枝	岡本 美佳
井上小百合	河野紀代子	倉本 節子	佐川 公子	檜原 知義
井上 まり	吉田 純	山本 美幸	赤川久美子	佐野 久美
石橋 幸恵	野木 友美	稲江 司子	原口 栄子	福村喜代子

新納 房子	大西 順子	松本由希子	竹中 敏恵	廣瀬 久代
井上 彰夫	谷本 浩子	高橋加奈子	住友 裕子	一ツ松真弓
杉本 裕子	向井 境子	藤中 英子	中筋 良江	喜多美千代
吉田 裕美	折野 佳子	阿部 博子	伊月 愛子	鈴江美音子
出口末喜子	河野 静江	藤原 育代	中谷つや子	真鍋 花菜
池内 愛美	黒田 菜月	賛田美恵子	山本 恵子	中野 佑衣
松下 智子	山下 千聡	森本 明美	妹尾 敏子	中村 公子
町田 哲子	小西 千恵			

近代詩文の部

矢野 照代	横関久美子	吉田さい子	吉田佐知子	若林 節子
和田 悦代	和田富美子	朝三 和子	生野 久美	今治 宏美
岩崎 麻美	居和城幸代	大井 多栄	大石 正	大西 英子
大西千鶴子	小野 幸久	檉山 正代	川下小夜子	木内 典代
桐生 弘美	金城 泰子	栗林 和江	栗山 弘子	幸田 康代
小西真理子	佐々木春奈	坂尾 俊一	佐藤 恵子	清水美津子
武市 絢子	谷本富美世	玉城 豪	田村 知恵	富本 勲
長尾由美子	長原 七与	仁木シモエ	野田 満代	坂東 裕美
藤村 良枝	藤本 優子	藤原 一子	正見 千恵	松田美智子
松村 雅子	丸岡 良子	丸田 三恵	向井 通子	森 繁子
森岡嗣雅子	森本知世子	森本 陽子		

前衛の部

大胡恵里香	長崎 香	阿部 公恵	川村 佳世	林 由美
仁尾 みや	前川わかな	大胡 真美	水野 知子	友廣 佳奈
若林 美紀	岡本 奈々	梯 瑚子	高島 夏花	梶川 佳奈
永井 厚子	大西 英徳	中川 博雅	義富 博正	中川 富量
佐藤由紀代	大久保 怜	大坂 昌代		

デザイン

[審査員] 松下 計

[特別出品] 坂本三千一 福井 章 田中 一郎

[招待] 斎藤 繁次 坂野美恵子 敷島のり子 斎藤 剛

[無鑑査] 四十宮隆志

[特選] 田中見那美 (徳島県美術家協会会長賞)

埴淵 照二

[準 特 選]	岡田 典子	佐藤あすか	中西 絢樹		
[奨 励 賞]	佐々木奏美	森 風斗	南 絵里佳		
[入 選]	田村 あい (2)	斎藤志津子	松島 早紀	山野井宏宗	三木理紗子
	相原 佑香	佐藤あすか	半田 成葉	櫻間友紀乃	吉村 敏嗣 (3)
	吉本 美嶺	松本 美桜	榊原 百那 (2)	乾 佳琳	有田 瑞希 (2)
	江渕サーシャ	武林 莉杏	栗飯原倫佳	住友 亜美	三浦有友奈 (2)
	南 絵里佳				

第 71 回徳島県美術展出品・入選等状況

区分 \ 部門		日本画	洋 画	写 真	彫 刻	美術工芸	書 道	デザイン	計
出 品 点 数		44	264	763	22	166	790	58	2,107
出 品 者 数		42	217	225	20	116	475	39	1,134
入 賞 ・ 入 選	特 別 賞	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(7)
	特 選	2	3	4	1	2	8	2	22
	準特選	3	6	9	2	4	14	3	41
	奨励賞	3	5	8	2	3	13	3	37
	入 選 数	20	143	144	8	88	335	27	765
	計	28	157	165	13	97	370	35	865
	入 選 率	63.6	59.5	21.6	60.0	58.4	46.8	60.0	41.1
選 外	落 選 数	16	107	598	9	69	420	23	1,242
	落 選 率	36.4	40.5	78.4	40.0	41.6	53.2	40.0	58.9
無 審 査 出 品	特別出品	2	2	3	3	3	3	3	19
	招 待	5	3	17	4	6	35	4	74
	無 鑑 査	2	0	1	0	0	4	1	8
	賛助出品	0	3	0	1	2	1	0	7
	遺作出品	0	0	0	0	0	1	0	1
計		9	8	21	8	11	44	8	109
展示数		37	165	186	21	108	414	43	974

第 71 回徳島県美術展公募規定

部門 区分	日本画	洋 画	写 真	彫 刻
搬入日	9月25日(日)	9月24日(土)	10月2日(日)	9月25日(日)
搬入場所	あわぎんホール(県郷土文化会館)3階展示室			
審査日	9月25日(日)	9月25日(日)	10月2日(日)	9月25日(日)
審査員	中野 嘉之	久野 和洋	三好 和義	木戸 修
出品料	協会員1点目3,500円 その他の方4,500円 高校生2,500円 2点目からはすべて1,500円			
出品制限・大きさ・仕上げ	・未公開作品に限る ・写真部門は1人5点まで、その他の部門は点数に制限なし ・高校生以上とし、小・中学校在学者は出品できない 最小が額縁の幅を除いた画面の縦横の長さが70.0センチメートル×47.0センチメートル以上で、最大が額縁の幅を含めた縦横の一边の長さが190.0センチメートル以内 壁掛するパネル等を使用の上、額装とする パネル等の裏面には吊り紐をつけること パネルや画面が額より出ないこと アクリル・ガラス等で画面上を覆わないこと (注)徳島県美術展日本画出品規定における額装の額とは、作品正面から見て一边の額幅が1.0センチメートル以上の木材又は金属で作られた外枠をいう 20号～60号までとする S型は30号までを上限とし、版画は10号以上とする アクリル、ガラス等で画面上を覆わないこと (ただし、水彩画、版画はアクリルに限って認める) 額・吊り紐は必ず付け、保管・展示等に支障がない作品とすること 単写真、組写真とも半切およびA3から全倍サイズ 画面の長辺は40cm以上90cm以内 スクエアサイズ(正方形)は一边が30cm以上50cm以内 組写真は1パネル(90cm×180cm以内)に全作品を固定 作品は必ずパネル貼りし、額装はしないこと (ガラス、アクリル装着、金属、プラスチック、木材などによる枠取り不可) 高さ2×幅1.82×奥行1.5以内、重量200kg以内 (上記サイズを超える作品は屋外展示とする) 材料等は自由、展示可能な作品に限ります			
入 賞	特 選 2点 特別賞 1点 準特選 3点 奨励賞 3点	特 選 3点 特別賞 1点 準特選 6点 奨励賞 5点	特 選 4点 特別賞 1点 準特選 9点 奨励賞 8点	特 選 1点 特別賞 1点 準特選 2点 奨励賞 2点

部門 区分	美術工芸	書 道	デザイン
搬入日	9月25日(日)	9月30日(金)	10月2日(日)
搬入場所	あわぎんホール(県郷土文化会館)3階展示室		
審査日	9月25日(日)	10月1日(土)	10月2日(日)
審査員	中井 真次	西嶋 慎一・山根 互清・渡部 會山	松下 計
出品料	協会員1点目3,500円 その他の方4,500円 高校生2,500円 2点目からはすべて1,500円		
出品制限・大きさ・仕上げ	・未公開作品に限る ・写真部門は1人5点まで、その他の部門は点数に制限なし ・高校生以上とし、小・中学校在学者は出品できない ・立体作品は、50cm立方換算以内(たて×よこ×おくゆきが125,000立方cm以内)とする 但し、たて100cm・よこ100cm・おくゆき100cm以内とする ・平面作品は、150cm平方換算以内(たて×よこが22,500平方cm以内)とする 但し、たて180cm・よこ150cm以内とする 木、竹、金工、陶磁、漆、染色、織物、人形、ガラス等とし、展示できる用具を必ずつけることとする 半切又は全紙1/2以上、仕上がり面積1.47㎡(16平方尺)以内で縦・横自由 巻子・帖は40㍺×300㍺以内 篆刻は印影とし、タテ39㍺×ヨコ30㍺以内の額装に限る (例) 61㍺(2尺)×242㍺(8尺) 枠張りに限る 79㍺(2.6尺)×181㍺(6尺) " 91㍺(3尺)×161㍺(5.3尺) " 121㍺(4尺)×121㍺(4尺) " 半切・全紙1/2・迎落まで額装アクリル入りでもよい 無鑑査以上の出品者は半切・全紙1/2以内、横幅90㍺以内とする 次の部門に属する作品とする ①漢 字(臨書不可)・篆刻(模刻不可) ②仮 名(臨書不可) ③近代詩文書 ④前 衛(文字を表現したもの) それぞれ釈文をつけることとする B1サイズ(728×1,030[㍺])で厚さ5～75[㍺]、外枠(幅20[㍺]以内)を含めた重さが5kg以内とする グラフィックデザインとし、原画の材質は問わないが、ガラス額装は不可 実在の商品名、会社名等とは不可とし、著作権・肖像権に触れないこと 吊り紐をつけることとする		
入 賞	特 選 2点 特別賞 1点 準特選 4点 奨励賞 3点	特 選 8点 特別賞 1点 準特選 14点 奨励賞 13点	特 選 2点 特別賞 1点 準特選 3点 奨励賞 3点

徳島県美術展審査員一覧

回数	部門	日 本 画	洋 画	写 真	彫 刻 (46 回まで彫刻)
1		委 員	野 間 仁 根 蒙 泉 三 郎	委 員	
2		大 栗 旌 仟	野 間 仁 根	上 田 備 山	太 坂 田 東 三 文 郎 美
3		委 員	伊 原 宇三郎	同 上	太 坂 鹿 田 東 内 三 文 郎 美 洲
4		委 員	須 田 国太郎	同 上	同 上
5		上 村 松 篁	田 村 孝之介	小 野 由 行	太 坂 田 東 三 文 郎 美
6		西 山 英 雄	伊 藤 継 郎	川 崎 亀太郎	同 上
7		山 口 華 楊	田 川 勤 次	棚 橋 紫 水	新 田 藤太郎
8		池 田 遙 村	須 田 剋 太	同 上	太 坂 田 東 三 文 郎 美
9		水 田 竹 圃	小 出 卓 二	同 上	同 上
10		管 楯 彦	鈴 木 信太郎 間 仁 根	同 上	同 上
11		奥 村 厚 一	井 上 長三郎	岩 宮 武 二	同 上
12		浜 田 観	福 沢 一 郎	棚 橋 紫 水	同 上
13		小 松 均	藤 井 令太郎	同 上	辻 東 晋 堂 美
14		秋 野 不 矩	針 生 一 郎	岩 宮 武 二	針 生 一 郎
15		奥 村 厚 一	向 井 潤 吉	棚 橋 紫 水	管 沼 五 郎
16		同 上	吉 原 治 良	岩 宮 武 二	柳 原 義 達
17		松 尾 冬 青	中 谷 泰	同 上	向 井 良 吉
18		矢 野 鉄 山	池 島 勘治郎	同 上	安 田 周三郎
19		中 村 貞 以	森 芳 雄	堀 内 初太郎	堀 内 正 和
20		曲 子 光 雄	桂 ユキ子	岩 宮 武 二	植 木 茂
21		沢 野 文 臣	伊 谷 賢 蔵	同 上	佐 藤 忠 良
22		堂 本 阿岐羅	村 井 正 誠	同 上	辻 晋 堂
23		松 岡 政 信	山 下 大五郎	同 上	井 上 武 吉
24		山 崎 忠 明	大 沢 昌 助	棚 橋 紫 水	菊 池 一 雄
25		奥 村 厚 一	斉 藤 真 成	同 上	原 武 典
26		梶 喜 一	島 村 三七雄	同 上	掛 井 五 郎
27		上 原 卓	高 田 誠	伊 藤 知 己	松 村 外次郎
28		黒 光 茂 樹	中 間 冊 夫	岩 宮 武 二	小 畠 広 志
29		松 岡 政 信	島 田 章 三	同 上	保 田 春 彦
30		黒 光 茂 樹	田 中 岑	岩 宮 武 二	篠 崎 明 雄
31		河 合 健 二	田 中 忠 雄	同 上	江 口 週
32		長谷川 青 澄	山 口 長 男	岸 藤 武 三 萩 富 山 武 三 郎	一 色 邦 彦
33		松 岡 政 信	吉 井 忠	萩 富 山 武 三 郎	柳 原 義 達
34		山 岸 純	小 西 保 文	岩 宮 武 二	清 水 九兵衛
35		樋 笠 数 慶	荻 太 郎	同 上	桜 井 祐 一

美術工芸	書 道	デザイン (37 回まで商業美術)
鬼塚 信之	委 員	
同 上	田 中 白 村	
同 上	炭 山 南 木	
同 上	炭 山 南 木 ・ 織 田 子 青	
同 上	手 島 右 卿	
鬼塚 信之 新田 信太郎	同 上	
鬼塚 信之	小 坂 奇 石	
明 石 朴 景	辻 本 史 邑	
会 田 裕 宣	織 田 子 青 (漢) ・ 出 口 草 露 (仮)	
鴨 政 雄	松 井 恕 流	
近 藤 悠 三	荒田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・後藤 田中 香 石 田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・後藤 田中 香 石	
平 松 宏 春	同 上	
同 上	荒田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・後藤 田中 香 石 田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・後藤 田中 香 石	
大 西 忠 夫	荒田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・後藤 田中 香 石 田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・後藤 田中 香 石	
明 石 朴 景	同 上	
平 松 宏 明	同 上	
大 西 忠 夫	同 上	
鴨 政 雄	同 上	
平 松 宏 春	同 上	
内 田 邦 夫	同 上	
山 脇 洋 二	同 上	
槻 尾 宗 一	同 上	
山 脇 洋 二	荒田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・田中 栢 翠 田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・田中 栢 翠	
藤 本 能 道	同 上	
三 井 安 蘇 夫	同 上	金 野 弘
六 角 穎 雄	同 上	大 智 浩
鈴 木 貫 爾	同 上	早 川 良 雄
田 村 耕 一	同 上	原 弘
山 脇 洋 二	荒田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・田中 双 鶴 田 井中 天双 鶴・後藤 藤中 泰 秀・田中 双 鶴	田 中 一 光
浅 野 陽	同 上	奥 野 秀 雄
前 田 泰 次	同 上	灘 本 唯 人
山 脇 洋 二	同 上	大 高 猛
中 村 光 哉	荒田 井中 天双 鶴・久保 幽 香・新 岐 泰 泉・田中 双 鶴 田 井中 天双 鶴・久保 幽 香・新 岐 泰 泉・田中 双 鶴	福 田 繁 雄
山 脇 洋 二	同 上	永 井 一 正

回数	部門	日 本 画	洋 画	写 真	彫 刻 (46 回まで彫刻)
36		坂 口 麻沙子	吉 井 淳 二	岩 宮 武 二	土 谷 武
37		下 田 義 寛	野見山 暁 治	同 上	山 本 正 道
38		同 上	須 田 寿	高 田 誠 三	清 水 九兵衛
39		同 上	斉 藤 真 一	同 上	城 田 孝一郎
40		下 保 昭	津 高 和 一	嵩 富 武 三	清 水 良 治
41		橋 田 二 朗	小松崎 邦 雄	奈良原 一 高	淀 井 敏 夫
42		松 本 哲 男	国 領 經 郎	岩 宮 武 二	木 津 一 夫
43		山 岸 純	利根山 光 人	三 木 淳	橋 本 省
44		平 川 敏 夫	赤 穴 宏	高 田 誠 三	山 崎 猛
45		福 井 爽 人	桜 井 寛	三 木 淳	土 谷 武
46		岩 沢 重 夫	大 森 朔 衛	同 上	峯 田 敏 郎
47		穂 田 一 稗	谷 本 重 義	立 木 義 浩	小 島 弘
48		田 淵 俊 夫	大 沼 映 夫	杵 島 隆	建 畠 覚 造
49		中 路 融 人	馬 越 陽 子	同 上	綿 引 道 郎
50		下 田 義 寛	三 栖 右 嗣	奈良原 一 高	古 島 実
51		工 藤 甲 人	中 根 寛	斉 藤 康 一	恩 田 静 子
52		那波多目 功一	松 樹 路 人	細 江 英 公	石 井 厚 生
53		那 須 勝 哉	藤 田 吉 香	高 田 誠 三	香 浦 有 爾
54		内 田 あぐり	奥 谷 博	同 上	小 林 陸一郎
55		松 尾 敏 男	佐々木 豊	大 石 芳 野	日 原 公 大
56		山 崎 隆 夫	大 津 英 敏	同 上	石 黒 鏑 二
57		岩 本 和 夫	山 本 貞	細 江 英 公	原 武 典
58		大 矢 紀	福 島 瑞 穂	江 成 常 夫	菅 原 二 郎
59		竹 内 浩 一	中 山 忠 彦	大 石 芳 野	米 林 雄 一
60		小 嶋 悠 司	絹 谷 幸 二	江 成 常 夫	北 郷 悟
61		宮 廻 正 明	山 本 文 彦	同 上	鈴 木 久 雄
62		能 島 和 明	島 田 鮎 子	英 伸 三	中 垣 克 久
63		雲丹亀 利 彦	桜 井 寛	田 沼 武 能	林 武 史
64		西 田 俊 英	塗 師 祥一郎	同 上	津 田 裕 子
65		岡 村 倫 行	金 山 佳 子	三 好 和 義	建 畠 朔 弥
66		宮 いつき	大 津 英 敏	江 成 常 夫	深 井 隆
67		小 山 硬	笠 井 誠 一	大 石 芳 野	湯 村 光
68		土 屋 禮 一	佐 藤 泰 生	大 石 芳 野	保田井 智 之
69		上 村 淳 之	池 田 清 明	織 作 峰 子	村 井 進 吾
70		中 島 千 波	堀 研	江 成 常 夫	三 沢 厚 彦
71		中 野 嘉 之	久 野 和 洋	三 好 和 義	水 戸 修

美術工芸	書 道	デザイン (37 回まで商業美術)
田 村 耕 一	荒 井 天 鶴・田 中 双 鶴・田 中 栢 翠	山 城 隆 一
同 上	同 上	粟 津 潔
山 下 恒 雄	荒 井 天 鶴・田 中 双 鶴・田 中 栢 翠	田 中 一 光
同 上	同 上	長 友 啓 典
浅 野 陽	荒井天鶴・久保幽香・讀岐泰泉・春藤大耿・高原清泉 田中双鶴・田中栢翠・長江清幽・新居藍州・西岡楚峰	亀 倉 雄 策
中 村 光 哉	明 石 春 浦 ・ 坪 井 正 庵	伊 藤 憲 治
浅 野 陽	桜 井 琴 風 ・ 黒 野 清 宇	サイトウ・マコト
山 下 恒 雄	大 岡 皓 崖・山 田 伍 雲・西 野 象 山	佐 藤 晃 一
三 浦 小 平 二	花 田 峰 堂・小 山 素 洞・東 地 滄 厓	河 北 秀 也
松 永 勲	浅 見 綿 龍・森 本 妙 子・加 藤 大 碩	松 永 真
山 下 恒 雄	近 藤 摂 南・東 山 一 郎・中 野 北 溟	浅 葉 克 己
島 田 文 雄	谷 村 意 齋・植 村 和 堂・太 田 義 久	勝 井 三 雄
大 西 長 利	安 原 阜 雲・池 田 桂 鳳・金 子 卓 義	五十嵐 威 暢
山 下 恒 雄	鈴 木 桐 華・西 本 支 星・金 子 聰 松	青 葉 益 輝
島 田 文 雄	尾 崎 邑 鵬・井 茂 圭 洞・大 井 錦 亭	松 永 真
中 井 貞 次	栗 原 蘆 水・榎 倉 香 邨・種 谷 扇 舟	安 西 水 丸
栗 木 達 介	甫 田 鷄 川・小 山 やす子・石 飛 博 光	U. G. サトー
宮 田 亮 平	杭 迫 柏 樹・藤 木 正 次・吉 田 成 堂	早 川 良 雄
松 永 勲	津 金 孝 邦・池 田 桂 鳳・松 永 暘 石	戸 田 正 寿
竹 内 順 一	田 中 節 山・村 上 俄 山・黒 田 玄 夏	杉 浦 康 平
栗 木 達 介	宮 崎 葵 充・赤 江 華 城・金 子 卓 義	秋 山 孝
中 井 貞 次	星 弘 道・宮 重 小 蘭・西 野 象 山	遠 藤 享
島 田 文 雄	吉 川 蕉 仙・清 水 透 石・作 田 英 嗣	中 村 誠
竹 内 順 一	岩 井 韻 亭・光 宗 道 子・大 井 錦 亭	小 島 良 平
宮 田 亮 平	伊 藤 天 游・井 茂 圭 洞・田 岡 正 堂	永 井 一 正
島 田 文 雄	稲 垣 崧 圃・横 山 煌 平・船 本 芳 雲	新 島 実
増 村 紀一郎	樽 本 樹 邨・東 山 一 郎・辻 元 大 雲	三 木 健
石 川 充 宏	真 神 巍 堂・前 島 泉 洲・長谷川 牧 風	松 井 桂 三
竹 内 順 一	鈴 木 春 朝・山 本 高 邨・砂 本 杏 花	河 北 秀 也
山 下 了 是	大河内 仙 嶽・師 田 久 子・飯 高 和 子	勝 井 三 雄
大 樋 年 朗	土 井 汲 泉・舟 尾 圭 碩・百 瀬 大 蕪	佐 藤 晃 一
宮 田 亮 平	西 村 自 耕・岩 永 栖 邨・西 野 象 山	新 村 則 人
豊 福 誠	今 村 桂 山・横 山 煌 平・森 本 龍 石	福 島 治
若 山 裕 昭	渡 部 清・田 頭 一 舟・鈴 木 まつ子	秋 山 孝
山 下 義 人	鬼 頭 墨 峻・吉 川 美恵子・小 竹 石 雲	伊 藤 豊 嗣
中 井 貞 次	西 嶋 慎 一・山 根 互 清・渡 部 會 山	松 下 計

徳島県美術展開催運営要項

第1条（名称・開催目的）

本展は徳島県美術展「以下（県展）という」と称し、広く県民から個性と創造性豊かな美術作品を公募し、審査員による公開審査により優秀な作品を選び、展示表彰することにより県内美術愛好家の制作意欲の活性化をはかり、一方県民に郷土の優れた美術鑑賞の機会を提供することにより本県の芸術文化の発展振興に寄与することを目的とする。

第2条（主催団体）

県展は徳島県美術家協会と徳島新聞社の共催により開催する。

第3条（開催運営の組織）

県展を開催運営するため、基本事項を審査決定する「県展運営委員会」と、主として準備計画を進める「県展事務局」で構成する。運営委員、事務局員の任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

【県展運営委員会】

運営委員会のメンバーは、県美術家協会の会長、副会長2名及び各部会から2名、徳島県から1名、徳島新聞社から2名の合計20名でこれを構成する。運営委員の中から運営委員長1名、運営副委員長2名を選任する。運営委員長は運営委員会を統括し次の業務を行う。

1. 開催運営の基本事項について審議決定すること。
2. 審査員の推薦決定に関すること。
3. 審査方法、表彰に関すること。
4. 収支予算、決算の承認に関すること。
5. その他県展開催に必要なこと。

【県展事務局】

事務局を徳島市中徳島町2丁目5番地の徳島新聞社企画事業部内に置く。

事務局のメンバーは、県美術家協会事務局1名、徳島新聞社3名の計4名で構成する。事務局の中から事務局長1名を選任し、次の業務を行う。

1. 出品規定、応募要項、入場券、ポスター、チラシ、図録等の印刷、受付、配布、販売等に関すること。
2. 会場、会期、審査、搬入、搬出、運営全般の下準備に関すること。
3. 審査員候補の下交渉、配宿、航空券の手配、審査日時、場所、接遇等に関すること。
4. 収支予算案の作成に関すること。
5. 開会式、表彰式の準備に関すること。
6. 広報PRに関すること。
7. その他県展開催の下準備に関すること。

第4条（出品部門）

県展の出品部門は、日本画、洋画、写真、彫刻、美術工芸、書道、デザインの7部門とする。

第5条（展示作品）

県展において展示する作品は、前条に掲げる7部門の中から次の作品とする。

1. 一般公募作品の中から主催者が委嘱する審査員の審査を経て入選した作品及び招待、無鑑査、特別出品の作品を展示する。その他の作品については運営委員会の議を経て展示する。

2. 招待、無鑑査、特別出品については次の規定による。

◇次のものを招待とする。

- (1) 無鑑査出品を3回以上得たもの。

◇次のものを無鑑査とする。

- (1) 特選を連続3回得たもの。
- (2) 年間を問わず特選を4回得たもの。
- (3) 年間を問わず特選及び準特選を6回得たもの。（特選1回準特選5回、特選2回準特選4回、特選3回準特選3回、準特選6回の場合とする）
- (4) 無鑑査出品者にして、特選または準特選を得たもの。

◇次のものを特別出品とする。

- (1) 県美術家協会の会長、副会長、顧問、名誉会長、参与、審査員及び各部の会長、顧問、参与。
- (2) 各部の会長を永年勤めて実績があり運営委員会の議を得たもの。

（注）① 招待及び無鑑査出品者が出品しない場合は、運営委員会で認められた事由がない限りその資格を失うものとする。

② 17回展までの奨励賞は準特選と同値とする。

第6条（審査員）

審査員は県外審査員とする。審査員の選任は県美術家協会から一定数の人数を推薦し、この中から事務局で選任作業を行い、運営委員会の議を経て決定する。

第7条（審査）

審査は公開により行う。

第8条（入選、入賞数）

1. 入選、入賞数は作品の出品数の増減により多少変動する場合があるが、原則として次の範囲内に止める。

区 分	特 選	特別賞（特選の中から1点）	準特選	奨励賞	入 選
日 本 画	2	徳 島 県 知 事 賞	3	3 以内	規定数
洋 画	3	徳 島 県 議 会 議 長 賞	6	5 "	"
写 真	4	徳島県教育委員会教育長賞	9	8 "	"
彫 刻	1	徳 島 市 長 賞	2	2 "	"
美術工芸	2	徳 島 新 聞 社 長 賞	4	3 "	"
書 道	8	四 国 放 送 社 長 賞	14	13 "	"
デザイン	2	徳 島 県 美 術 家 協 会 長 賞	3	3 "	"

※特別賞は各部門の中から最優秀作品1点に対し贈られるものです。

賞はいずれも同格で毎年部門により一つずつ変更し賞を贈ります。

2. 入賞は1部門1人1賞とする。

第9条（表 彰）

県展の入選、入賞者を次の通り表彰する。

1. 特 選……賞状、賞金
2. 準特選……賞状、賞金
3. 奨励賞……賞状、記念品
4. 入 選……全員に賞状

なお、特選に入賞した作品の中から特に優れた作品について次の特別賞を贈る。

1. 徳島県知事賞 1名
2. 徳島県議会議長賞 1名
3. 徳島県教育委員会教育長賞 1名
4. 徳島市長賞 1名
5. 徳島新聞社長賞 1名
6. 四国放送社長賞 1名
7. 徳島県美術家協会会長賞 1名

◎特別賞の選考方法については別に定めるものとする。

第10条（収支予算）

県展の開催、運営に要する経費は次のものをあてる。

1. 出品料
2. 入場料
3. 図録売り上げ代金及び広告料
4. 各種補助金

5. その他

県展の支出経費は事務局長の承認を経て行い、必ず証票をとり、毎年 12 月に決算を行い、運営委員会に報告し承認を得るものとする。

第 11 条（出品料・協賛費）

県展の出品料及び協賛費は次の通りとする。

1. 県美術家協会会員の出品料は、1 点目 3,500 円、2 点目から 1 点につき 1,500 円とする。
2. 一般の方の出品料は、1 点目 4,500 円、2 点目から 1 点につき 1,500 円とする。
3. 高校生の出品料は、1 点目 2,500 円、2 点目から 1 点につき 1,500 円とする。
4. 招待、無鑑査、特別出品者及びその他審査を受けない者の協賛費は 1 点 3,500 円とする。

第 12 条（入場料）

県展の入場料は次の通りとする。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1. 一般・大学生 | 前売り 600 円 | 当日 800 円 |
| 2. 高 校 生 | | 当日 300 円 |

第 13 条（附 則）

本要項の規定は昭和 61 年 9 月から実施する。

本要項の改訂、修正は運営委員の 3 分の 2 以上の議決を経てこれを行うものとする。

平成 4 年 2 月 22 日	一部改正
平成 4 年 5 月 16 日	一部改正
平成 8 年 5 月 25 日	一部改正
平成 11 年 5 月 14 日	一部改正
平成 13 年 5 月 30 日	一部改正
平成 14 年 9 月 25 日	一部改正
平成 17 年 6 月 14 日	一部改正
平成 18 年 4 月 11 日	一部改正
平成 23 年 2 月 20 日	一部改正
平成 24 年 2 月 24 日	一部改正
平成 25 年 8 月 20 日	一部改正
平成 26 年 8 月 6 日	一部改正

第12回徳島県こども美術展出品・入選等状況

会 期 10月14日(金)～10月18日(火)

会 場 あわぎんホール(徳島県郷土文化会館)

入場者数 大人 2,161人 こども 1,092人 計 3,253人

出品・入選等状況

【絵画部門】

種 別		一 般 展 出 品							特 別 企 画 展 出 品					
学 年		作品総数	特選 (特別賞含む)	準特選	優秀賞	入選	入選合計	入選率 (%)	作品総数	特別賞	優秀賞	入選	入選合計	入選率 (%)
小学生	1年	526	2	2	41	48	93	17.68	251	1	17	25	43	17.13
	2年	527	2	2	42	47	93	17.65	254	1	10	17	28	11.02
	3年	485	2	2	43	40	87	17.94	184	1	8	11	20	10.87
	4年	403	2	2	29	33	66	16.38	141	1	5	8	14	9.93
	5年	363	2	2	24	32	60	16.53	113	1	5	8	14	12.39
	6年	408	2	2	30	35	69	16.91	98	1	5	8	14	14.29
中学生	1年	175	2	2	12	16	32	18.29	40	1	2	4	7	17.50
	2年	186	2	2	15	17	36	19.35	25	1	2	3	6	24.00
	3年	133	2	2	7	16	27	20.30	19	1	2	3	6	31.58
計		3,206	18	18	243	284	563	17.56	1,125	9	56	87	152	13.51

【書写部門】

種 別		一 般 展 出 品							特 別 企 画 展 出 品					
学 年		作品総数	特選 (特別賞含む)	準特選	優秀賞	入選	入選合計	入選率 (%)	作品総数	特別賞	優秀賞	入選	入選合計	入選率 (%)
小 学 生	1年	345	2	2	12	32	48	13.91	451	1	10	18	29	6.43
	2年	535	2	2	20	48	72	13.46	616	1	14	24	39	6.33
	3年	1,103	2	2	37	103	144	13.06	754	1	18	30	49	6.50
	4年	823	2	2	29	75	108	13.12	690	1	17	28	46	6.67
	5年	764	2	2	28	71	103	13.48	847	1	20	34	55	6.49
	6年	732	2	2	27	68	99	13.52	762	1	17	31	49	6.43
中 学 生	1年	355	2	2	13	33	50	14.08	357	1	8	14	23	6.44
	2年	312	2	2	11	29	44	14.10	248	1	6	10	17	6.85
	3年	228	2	2	8	21	33	14.47	207	1	5	8	14	6.76
計		5,197	18	18	185	480	701	13.49	4,932	9	115	197	321	6.51

※県南巡回展(阿南市) 11月 5日(土) 6日(日) 入場者数 695人

※県西巡回展(美馬市) 11月26日(土) 27日(日) 入場者数 613人

各部記録

日 本 画 部

部 会 長 岡 英彦

年間展望

◎第 24 回放美展（5月2日～5月6日 あわぎんホール）

応募点数は 22 点で、その中から入選 15 点、さらに入賞 4 点を選んだ。審査は 3 名の審査員の投票制で行い、賞については、現代の時代を反映した未熟でも新しさのあるものを、審査員の合議により選出した。放美賞の富永博子さん「華」はヒナゲシを画面いっぱいに描いた技術的にも感覚的にも優れた作品。花の形にとらわれず光や風、作者が感じた情景を素直に表現している。この度、無鑑査となった優秀賞の竹田彩夏さん「飛沫」は勢いがある高校生らしい作品。赤の絵の具の使い方が印象的で、魚の目にメッセージ性を感じ取られる。四国大賞の広瀬優さん「胡蝶蘭」はその場の空気や時間を不思議な世界観に仕上げている。同じ蘭を題材にした梅岡トヨ賞の保岡綾さんの「清純」はブルーの空間が爽やかに表現されている。全体的にエネルギーにあふれた好感が持てる作品が多く、惜しくも選に漏れた作品の中にも、作者の主張を感じさせるものが多かった。来年も作者の思いが伝わってくる力強い作品を期待したい。また、今回からギャラリートークが開催され、日本画部門は 30 名あまりの聴講者があり、受賞作品を中心に審査員 2 名（岡、土方）がそれぞれの作品について解説した。

審査員（岡英彦・土井洋子・土方るみ子）

◎第 57 回新作日本画展（6月23日～26日 阿波銀プラザ）

この展覧会は、春の放美展、秋の県展の間において、入落に関係なく思い切った作品を出品することができ、それが日本画人口を増やすことになるという思いで、平成 27 年に再開した。今年も意欲あふれる魅力的な作品が 71 点出品され、3 日間で 529 名の来場者があった。また、展覧会期間中に懇親会も開催された。

新作大賞	「雨の日」	梶浦 千瑞
新 作 賞	「尊ぶ」	中川 敬
	「巻きながら上に」	安湊 弘佑
	「白臬」	久保 守近
	「柿」	森本 秀代
佳 作	「CUBE（キューブ）」	富永 博子
	「夏の終わり」	霜田 治代
	「木曾路の集落」	加統 勢一
	「闇花」	湯村 恵子
	「ひっそりと佇む」	村上 智広

◎第 71 回徳島県美術展（10 月 7 日～12 日 あわぎんホール）

今回の審査は、多摩美術大学名誉教授の中野嘉之先生にお願いした。応募点数は 44 点で、その中から特別賞（県知事賞）1、特選 1、準特選 3、奨励賞 3 を含む入選 28 点を選んだ。中野先生には厳正に審査していただいた後、講評をしていただき、特に紙と墨の表現技法や扱いについてお話をいただいた。

また、特選、準特選などの作品に関する講評は次のようなものであった。

県知事賞の坂容子「芽吹く」は、日本画の顔料の使い方が的確で、緑青の発色が非常に美しく、微妙な色を一つ一つ置いていく神経が行き届いている。特選の西岡ちほ「時を往く」は、顔料を積み重ねることで、壁や光の厚みが良く表現されており、壁や瓦が経た年数、描いた時間帯まで読み取れる。準特選の梶浦千瑞「休日」は自転車やオートバイなどを幾何学的に描き、今までと違った視点で日常性を鋭く表現している。大塚さや香「親子」は絵の具の重ね方が熟練しており、重量感がある。吉村敬子「凜然」は白の空間が美しく、空気感のある爽やかな作品。

出品作品はどれも特徴や面白みがあり、レベルの高さを感じた。それぞれが顔料を使いこなし、モチーフにこだわりを持ち、地道に描いていることに好感を持てた。題材は何げない所にころがっているものなので、日頃からスケッチを心掛けてほしい。

特選 (県知事賞)	「芽吹く」	坂 容子
特選	「時を往く」	西岡 ちほ
準特選	「休日」	梶浦 千瑞
準特選	「親子」	大塚さや香
奨励賞	「思い出のバラ」	水田 貴子
奨励賞	「なにわのいばら」	中嶋 昌子
奨励賞	「佳月に咲く」	中川 敬

◎中川健日本画遺作展（5 月 24 日～30 日 そごう徳島店、25 日～30 日 阿波銀プラザ）

平成 26 年に 70 歳で没した、美術家協会理事、日本画部会長も務めた中川健の遺作展が 2 会場で開催された。20 号～30 号の人物、花、風景を描いた日本画を中心に、スケッチや水彩画など計 110 点が並び、画業を一覧できる展覧会となり、多くの鑑賞者が訪れた。

会員消息（県展・放美展・新作日本画展関係は除く。月別。）

2 月	第 44 回徳島市芸術祭美術展	シビックセンターギャラリー	土方喜美子（特別出品）・久保守近
3 月	第 56 回日本南画院展（東京展）	国立新美術館	藤井吉信 （同人・読売新聞大阪本社賞）
	第 3 回 NTT 趣味の作品展	あわぎんホール	藤井吉信

	柳田一子日本画展	阿波銀プラザ	柳田一子
4 月	第 56 回日本南画院展（京都展）	京都市美術館	藤井吉信 （同人・読売新聞大阪本社賞）
	第 56 回日本南画院展（大阪展）	大阪市立美術館	長谷壽（同人）・藤井吉信（同人・読売新聞大阪本社賞）
	山川公民館サロン展	山川地域総合センター	藤井吉信
	第 3 回うだづ Art Award 2016	Art センター・ユープラザうだづ	水田貴子
5 月	第 55 回阿南市春季美術展	阿南市文化会館	長谷壽
	第 7 回徳島女流美術展	あわぎんホール	土井洋子・柳田一子・石原千鶴・斎藤久代・土方喜美子
	第 16 回朱泥会展	アミコ・シビックセンター	長尾弘子・斎藤久代
	第 52 回溪生社水墨画展	あわぎんホール	久保守近
8 月	第 21 回総合水墨画展	国立新美術館	久保守近
	アスタリスク展	徳島県立近代美術館ギャラリー	梶浦千瑞
	山川公民館サロン展	山川地域総合センター	藤井吉信
	第 7 回日本南画院展選抜展	京都市美術館	藤井吉信
	第 74 回日本画有秋会展	大阪市立美術館	藤井吉信
10 月	山川公民館サロン展	山川地域総合センター	藤井吉信
	第 47 回津田美術展	徳島市新浜交流センター	西野和男
	ねんりんピック長崎 2016 美術展	長崎県美術館	香山清子
	改組 新 第 3 回日展	国立新美術館	岡英彦 土方るみ子 橋本正弘
	第 25 回空谷記念田野全国水墨画展	高知県田野町ふれあいセンター	久保守近
11 月	第 12 回吉野川市文化祭	川島町体育館	藤井吉信
	第 45 回阿南市文化祭美術展	阿南市文化会館	長谷壽
	平成 28 年福井町文化祭	福井町総合センター	長谷壽
	第 19 回溪生社水墨画小品展	阿波銀プラザ	久保守近
	2016 とくしまねんりんピック美術展	あわぎんホール	香山清子（知事賞）
12 月	第 45 回歳末チャリティー作品・色紙即売展 そごう徳島店 6 階		長尾弘子・岡英彦・土方るみ子・土方喜美子・橋本正弘・中川敬
	山川公民館祭	山川地域総合センター	藤井吉信

洋 画 部

部 会 長 平 木 美 鶴

年間展望

◎第 24 回放美展 会期：5 月 2 日～5 月 6 日 場所：あわぎんホール

出品者数は 142 人、出品数 162 点中、90 点の入選（入賞を含む）で入選率は 56% でした。審査員は田中シゲミ、嵯峨潤三、平木美鶴でした。放美賞は、鈴江空里子さんの「放課後の美術室」でした。鈴江さんは高校生ですが、的確な描写力による素直な画面作りと爽やかな色彩が評価されました。描かれていたのは彫刻を作る友人で、その友人の作っていた作品は彫刻部門で四国大学賞を受賞しました。これからの益々の活躍に期待します。優秀賞は 6 名でした、その中の杉本祥子さんは明るい作風が放美展で常に評価されましたが、この度、めでたく無鑑査となりました。堀江幸子さんは 94 歳での受賞でおおらかな描き方が評価されましたが惜しくも 5 月にお亡くなりになりました。ご冥福をお祈りいたします。岩井春美さんの作品は椿の華やかさと儚さが上手く表現されて良い作品でした。田中達也さんの作品は写実ですがシュールな雰囲気や自然と漂い不思議な魅力のある作品でした。西條敏夫さんは独自の構築性が良かったと思います。竹原良亮さんの作品はモノトーンへの差し色のバランスやマチエールに特徴がありました。四国大学賞の笠原三奈さん、梅岡トヨ賞の野口佳音さん共に高校生で若者らしい新鮮な画面作り画が評価されました。今回は、新たな試みとして 5 月 4 日に榊田務先生と平木で展示会場にてギャラリートークを開催しました。受賞者と入選者に作品説明をしてもらい、それに対して 2 人がコメントする形で進めましたが想像以上にたくさんの方々に参加いただき盛況でした。

放美賞	鈴江空里子	「放課後の美術室」
優秀賞	杉本祥子	「届ける」
	竹原良亮	「椿園」
	田中達也	「あの日、あの頃」
	堀江幸子	「老人施設のおもちつき」
	岩井春美	「TSUBAKI」.
	西條敏夫	「静物」
四国大学賞	笠原三奈	「訪れ」
梅岡トヨ賞	野口佳音	「溢れる」

◎第 30 回洋画部会員展 会期：6 月 30 日～7 月 3 日 場所：あわぎんホール

今回の会員の出品者数 67 名で昨年より 8 名減少していました。（入場者数 306 人）30 周年記念としては残念な結果でした。今回の企画としては懇親会を開催して参加者全員による自己紹介をしてよりコミュニケーションをはかれるようにしました。

年々、会員展の出品者数は減少傾向にあるので今年度、新規会員呼びかけのチラシを作り配

布するなどの努力の結果 13 名の新規会員を得ることができました。来年度の会員展では新たな企画を打ち出し、より活性化できるように努力していきたいと考えています。

洋画部会員展事務局は以下

中 央：伊勢浩章、黒崎志郎、嵯峨潤三、玉田秀子、露口敏幸、長尾弘久、南城ミツ子、
西川周三、平木美鶴、榎田 務

北 部：越久高照、河野公子、田中シゲミ

南 部：佐藤敬子、中辻奈美枝、福良哲子

西 部：近藤克子、鈴木敬子、松川 寛

事務局：清水 博 会 計：福良哲子 監 事：佐藤敬子

◎第 71 回県美術展 会期：10 月 7 日～ 10 月 12 日 場所：あわぎんホール

出品者数は 217 人、出品数 264 点中、157 点の入選（入賞を含む）で入選率は 59.5% でした。審査員は立会会同人、日本美術家連盟洋画部委員の久野和洋先生をお迎えしました。審査では多彩なジャンルから主題に実感が伴って絵画化できているか、心に響くものがあるかを重視して選んだと話されました。久野先生の審査評を要約すると県議会議長賞の玉田秀子さんの作品は人物像に作者の希望が表現されている。色の美しさが際立ち内容の密度が濃い。特選の坂東悦子さんの作品は日常の断片を絵画にすることは難しいが、過不足なくシンプルに表している。同じく特選の日野邦恵さんはバランスの良い構成が目を引き、技術を全面に出さない控えめな表現がいいと評されました。また「いい絵を描くには、誰かのまねをせずに、自分の感覚を信じて描き続けることが重要だ。新しさは自分の中にしかない。自分らしいものを表現することは生き方にも関わる。」とアドバイスされました。審査中の言葉として「大切なのはうまいとか下手であるかではなくリアリティーがあるかどうかである。」などの心に響く言葉をいただきました。

徳島県議会議長賞

	玉田秀子	「明日は」
特選	坂東悦子	「伝統のお茶作り」
	日野邦恵	「初夏の卓上」
準特選	林 敏夫	「猫と折り鶴」
	杉本祥子	「届ける I」
	西川周三	「コンテナ」
	藤本誠子	「分岐点」
	浅井清司	「初秋」
	谷 慎也	「印象 佐古川」.
奨励賞	佐竹菜花	「17 歳」
	遠藤誠一	「恩山寺谷」
	梅津美砂代	「変わらぬ風景」
	岩井春美	「モンスターから」
	鈴江空里子	「美容室 II」

会員消息 (県展・放美展を除く)

- 青木 幸子 徳島アート 21 第 14 回展・第 4 回 KENDO 洋画グループ作品展 (阿波銀プラザ)、東富田文化祭 (東富田コミュニティーセンター)
- 浅井 清司 第 82 回東光展 (都美術館)、第 73 回東光会徳島支部展 (あわぎんホール)、第 38 回白鳳洋画グループ展 (キョーエイ鳴門駅前店)
- 東 紀美子 徳島アート 21 第 14 回展 (阿波銀プラザ)、第 55 回阿南市美術展・第 45 回阿南市文化祭美術展 (阿南市文化会館)
- 阿部 昌子 第 47 回土曜展 (シビックセンター)、第 72 回青美展 (あわぎんホール)
- 天田 弘之 第 66 回モダンアート展 (都美術館)、第 48 回モダンアート徳島支部展 (阿波銀プラザ)、第 48 回石井美術の会 (阿波銀ホール)、ふるさとのパステル個展 (石井町徳島メガネ)
- 伊勢 浩章 徳島アート 21 第 14 回展 (阿波銀プラザ)、第 30 回洋画部会員展・第 33 回平和美術展・第 72 回青美展 (あわぎんホール)
- 乾 繁春 第 76 回美術文化展 (都美術館)、同京都巡回展 (京都市美術館)、同中部巡回展 (愛知県美術館)、第 26 回美術文化徳島支部展・第 75 回世代美術展 (阿波銀プラザ)、2016 特別展示企画高松油彩美学展賛助出品 (高松市美術館市民ギャラリー)、第 7 回鳴門水彩美学展 (キョーエイ鳴門駅前ギャラリー)
- 宇高 桂子 第 70 回女流画家協会展 (都美術館)、第 7 回徳島女流美術展 (あわぎんホール)
- 梅津美砂代 第 44 回徳島市芸術祭美術展 (シビックセンター)、第 30 回洋画部会員展・第 72 回青美展 (あわぎんホール)
- 大津 憲文 第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)、第 55 回阿南市美術展・第 45 回阿南市文化祭美術展 (阿南市文化会館)
- 大西利津子 第 44 回徳島市芸術祭美術展 (シビックセンター)、第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)、春季徳島二紀展 (阿波銀プラザ)、第 31 回徳島二紀展 (徳島県立近代美術館ギャラリー)
- 大西 文代 第 33 回青彩美術・第 41 回あわ洋画ぐるうぷ合同展 (シビックセンター)
- 大西 道夫 第 66 回モダンアート展 (都美術館)、第 48 回モダンアート徳島支部展 (阿波銀プラザ)、同京都展 (京都市美術館)、第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)、小松島市美術展 (小松島市中央公民館)、第 36 回道草展 (喫茶やまなみ)
- 岡田 君代 第 34 回平和美術展・第 30 回洋画部会員展・第 72 回青美展 (あわぎんホール)
- 小笠原秋子 第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)、三好郡・三好市教職員春風展 (たばこ資料館)、三好市文化祭 (ヨンデンプラザ池田)、三好町文化祭 (町体育館)
- 加川由紀子 徳島アート 21 第 14 回展・第 4 回 KENDO 洋画グループ作品展 (阿波銀プラザ)、第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)
- 片山美代子 第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)、第 2 回カロリト展・第 11 回阿波市吉野川美術交流展 (吉野川文化研修センター)、阿波市文化祭 (阿波市交流アエルワ)
- 河田 安市 第 92 回白日会展・改組新第 3 回日展 (国立新美術館)、第 30 回洋画部会員展 (あ

わぎんホール)

- 河野 公子 第 30 回洋画部会員展・第 33 回平和美術展・第 72 回青美展 (あわぎんホール)、
武市善次郎・河野公子洋画展、鳴門市展 (キョウエイ鳴門 4 階ギャラリー)
- 河本多恵子 徳島アート 21 第 14 回展・第 4 回 KENDO 洋画グループ作品展 (阿波銀プラザ)、
国府文化祭 (国府コミュニティーセンター)
- 岸本 花子 第 39 回八紅展 (阿波銀プラザ)、第 54 回全展 (都美術館)、第 5 回記念作品展 (エ
コセンター 2000 展示室)、第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)、八万
芸術祭 (八万コミュニティーセンター)
- 木谷 弘 第 76 回美術文化展 (都美術館)、第 26 回美術文化徳島支部展 (阿波銀プラザ)、
公募団体ベストセクション美術 2016 (都美術館)、悠美展 (ヨンデンプラザ徳島)、
第 4 回 KENDO 洋画グループ作品展 (阿波銀プラザ)
- 黒崎 志郎 第 104 回日本水彩展 (都美術館)、第 47 回示現会徳島支部展 (阿波銀プラザ)、
第 30 回洋画部会員展・第 69 回示現会展巡回徳島展 (あわぎんホール)、第
69 回示現会展・改組新第 3 回日展 (国立新美術館)
- 越久 高照 第 44 回徳島市芸術祭美術展 (シビックセンター)、第 27 回板野美術クラブ展 (板
野町文化の館)
- 小浜 敏也 第 45 回阿南市文化祭美術展 (阿南市文化会館)、椿アートギャラリー (椿公民館)
- 近藤 克子 改組新第 3 回日展・水彩連盟展 (国立新美術館)、第 82 回東光展 (都美術館)、
第 73 回東光会徳島支部展・第 30 回洋画部会員展・第 7 回徳島女流美術展 (あ
わぎんホール)、第 75 回世代美術展 (阿波銀プラザ)、鴨島美術グループ展 (吉
野川市文化センター)
- 後藤ユリ子 第 76 回美術文化展：会友推挙 (都美術館)、同京都巡回展：クサカベ賞 (京都
市美術館)、第 30 回洋画部会員展・第 72 回青美展 (あわぎんホール)
- 西條 敏夫 西條敏夫水彩画とオイルパステル画展 (ギャラリー喫茶グレイス)、第 28 回現
代パステル協会 (都美術館)、県立川島中学・高校美術部×OB 展 2016 (吉野
川市文化研修センター)、第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)、第 36 回
道草展 (小松島やまなみ珈琲店)
- 齋藤 靖子 日本版画院展 (都美術館)、第 7 回徳島女流美術展・第 45 回絵で見る徳島展 (あ
わぎんホール)、悠美展 (ヨンデンプラザ徳島)
- 嵯峨 潤三 嵯峨潤三抽象画展 (画廊喫茶グレース)、徳島アート 21 第 14 回展・第 75 回
世代美術展・第 14 回徳島版画展 (阿波銀プラザ)、第 30 回洋画部会員展 (あ
わぎんホール)
- 櫻木 直美 第 30 回洋画部会員展 (あわぎんホール)
- 佐々木公子 徳島アート 21 第 14 回展 (阿波銀プラザ)、第 1 回つくしの会小品アート展 (那
賀川図書館)、第 2 回つくしの会展 (阿南市文化会館)
- 佐藤 敬子 第 30 回洋画部会員展・第 72 回青美展 (あわぎんホール)、第 9 回徳島絵画美
学展 (阿波銀プラザ)
- 篠原佳代子 第 6 回昭和美術会展徳島巡回展・第 7 回徳島女流美術展 (あわぎんホール)、

- 第 49 回京洛小品展（ギャラリーきむら京都）、第 24 回篠原佳代子個展（ギャラリー喫茶アンデルセン）
- 四宮 久子 第 70 回記念二紀展（国立新美術館）、第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、春季徳島二紀展（阿波銀プラザ）、第 31 回徳島二紀展（徳島県立近代美術館ギャラリー）、個展（桜茶屋ギャラリー）
- 志摩 政照 第 92 回白日会展（国立新美術館）、第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、吉野川総合美術展・第 38 回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 島上 二郎 第 82 回東光展（都美術館）、第 73 回東光会徳島支部展・第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 白草 由子 第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 杉本 祥子 杉本祥子洋画展（杏詩木ショールム かふら）、第 70 回女流画家協会（都美術館）、徳島アート 21 第 14 回展・第 4 回 KENDO 洋画グループ作品展（阿波銀プラザ）、第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 鈴木 敬子 第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 38 回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 曾我部秀子 第 44 回徳島市芸術祭美術展招待（シビックセンター）、第 17 回日美絵画展（新国立美術館）、第 32 回八万文化祭（八万コミュニティセンター）
- 武田 洋子 第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、三好郡・三好市教職員春風展（たばこ資料館）、阿波・吉野川二市交流展（吉野川文化研修センター）、阿波市文化祭（アエルワ）、阿波絵画クラブ展（阿波図書館）
- 竹原 良亮 第 44 回徳島市芸術祭美術展（シビックセンター）、第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、東富田地区秋季文化祭（東富田コミュニティセンター）
- 田中シゲミ 第 44 回徳島市芸術祭美術展招待出品（シビックセンター）、第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、大麻町文化祭（鳴門市大麻町公民館）
- 田中 康子 第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、国府文化祭（国府コミュニティセンター）
- 谷 慎也 第 47 回土曜展（シビックセンター）、第 28 回現代パステル協会展（都美術館）、第 72 回青美展（あわぎんホール）
- 玉田 秀子 徳島アート 21 第 14 回展（阿波銀プラザ）、第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 1 回つくしの会小品アート展（那賀川図書館）、第 2 回つくしの会展（阿南市文化会館）
- 為実美恵子 第 29 回三好文化まつり（ヨンデンプラザ池田ギャラリー）
- 露口 敏幸 第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、第 75 回世代美術展（阿波銀プラザ）
- 手塚てる子 第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）、手塚てる子作品展（東京銀座・美の起源ギャラリー）、第 14 回徳島版画展（阿波銀プラザ）
- 答島 久子 第 55 回阿南市美術展・第 45 回阿南市文化祭美術展（阿南市文化会館）、第 30 回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 中村 恵一 第 30 回記念日洋展（新国立美術館）、同大阪会場（大阪市立美術館）、石井美術の会会員展（あわぎんホール）

- 長坂 芳子 第44回徳島市芸術祭美術展（シビックセンター）、第82回東光展（都美術館）、第73回東光会徳島支部展（あわぎんホール）、第31回藍美展（藍住町福祉センター）
- 仁木 幸子 第30回洋画部会員展（あわぎんホール）、八万町文化祭（法花コミュニティーセンター）
- 西 富美 第84回独立展（国立新美術館）、第84回独立大阪展（大阪市立美術館）、第15回埼玉独立展（埼玉県立近代美術館）、SCENE2016 武蔵野美術大学OBによるグループ展（東京銀座アートホール）、第30回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 西川 周三 徳島アート21第14回展（阿波銀プラザ）、第30回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 西川 敬子 第72回関西水彩画展（大阪市立美術館）、燎4人展・徳島アート21第14回展（阿波銀プラザ）、第7回徳島女流美術展・第30回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 二條 均 第34回平和美術展・第30回洋画部会員展・第72回青美展（あわぎんホール）、第27回板野美術クラブ展（板野町文化の館）
- 野上 恵子 第39回八紅展（阿波銀プラザ）、第44回徳島市芸術祭美術展（シビックセンター）、第30回洋画部会員展（あわぎんホール）、八万芸術祭（八万コミュニティーセンター）
- 野口 暁子 第39回八紅展（阿波銀プラザ）
- 林 静代 兵庫二紀新鋭作家展（トーアギャラリー）、兵庫二紀展（兵庫県立美術館）、第30回洋画部会員展（あわぎんホール）、アトリエバク展（桜茶屋ギャラリー）
- 林 康太郎 第30回洋画部会員展（あわぎんホール）
- 日野 邦恵 第82回東光展（都美術館）、第73回東光会徳島支部展・第30回洋画部会員展（あわぎんホール）、第38回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）、第9回徳島絵画美学展（阿波銀プラザ）、洋画3人展（ブリュサ）、ふたり展（徳島メガネ石井店）
- 平木 美鶴 第17回中華民国国際版画ビエンナーレ展（国立台湾美術館）、第1回枕崎国際芸術賞展（南溟館）、日本・カナダ国際版画展（京都市美術館）、トリプナグラフィック日本版画展（ルーマニア、クルシュ・ナボカ美術館）、第70回記念二紀展（国立新美術館）、第84回日本版画協会展（都美術館）、第30回洋画部会員展（あわぎんホール）、第14回徳島版画展・春季徳島二紀展（阿波銀プラザ）、第31回徳島二紀展（徳島県立近代美術館ギャラリー）
- 平田スミコ 第69回女流画家協会展（都美術館）、第30回洋画部会員展・第72回青美展（あわぎんホール）、一宮祭（一宮コミュニティーセンター）
- 平松 智子 第30回洋画部会員展・第72回青美展（あわぎんホール）、第38回鴨島美術グループ展（吉野川市文化研修センター）
- 福本 恵 第44回徳島市芸術祭美術展（シビックセンター）、第30回洋画部会員展（あわぎんホール）、第70回二紀展（国立新美術館）、第14回徳島版画展（阿波銀プラザ）、個展（ギャラリー喫茶グレース）
- 福良 哲子 第44回徳島市芸術祭美術展招待出品（シビックセンター）、第30回洋画部会員展（あわぎんホール）、第39回八紅展（阿波銀プラザ）、加茂谷文化祭（加

茂谷公民館)

- 藤井 香世 第4回 KENDO 洋画グループ作品展(阿波銀プラザ)
- 藤丸 家栄 徳島アート21 第14回展(阿波銀プラザ)
- 前川 富子 美術文化徳島支部展・第9回徳島絵画美学展(阿波銀プラザ)、水彩連盟展(都美術館・国立新美術館)、第30回洋画部会員展・石井美術作品展(あわぎんホール)、ふたり展(徳島メガネ石井店)
- 前川フキ子 第1回つくしの会小品アート展(那賀川図書館)、第2回つくしの会展(阿南市文化会館)、阿南市羽ノ浦町文化祭(羽ノ浦町公民館)
- 三沢 尚子 関西水彩画展(大阪市立美術館)、第7回徳島女流美術展(あわぎんホール)、第8回尚アート水彩画展(阿波銀プラザ)
- 梶田 務 第30回洋画部会員展・生きがい展(あわぎんホール)、第44回徳島市芸術祭美術展(シビックセンター)
- 松川 寛 第66回モダンアート展(都美術館、京都市美術館、福岡県立美術館)
- 真鍋たえ子 東富田文化祭(東富田コミュニティーセンター)
- 真鍋 弘子 徳島アート21 第14回展(阿波銀プラザ)
- 馬淵 博子 第30回洋画部会員展(あわぎんホール)、アトリエバク(桜茶屋ギャラリー)
- 馬淵 尚子 第30回洋画部会員展(あわぎんホール)、吉野川総合美術展・第38回鴨島美術グループ展(吉野川市文化研修センター)
- 三谷ミヤ子 第82回東光展(都美術館)、第73回東光会徳島支部展・第30回洋画部会員展(あわぎんホール)、第14回徳島アート21展(阿波銀プラザ)、第29回全国健康福祉祭(長崎県立美術館)、東富田文化祭(東富田コミュニティーセンター)、第44回徳島市芸術祭美術展招待出品(シビックセンター)
- 峰 幸子 第7回徳島女流美術協会展(あわぎんホール)、デッサン展(画廊喫茶グレース)、スケッチ展(徳大病院市民ギャラリー)、第44回むアート展・峰幸子展(阿波銀プラザ)
- 三好 初子 第82回東光展(都美術館)、第73回東光会徳島支部展・第30回洋画部会員展・第7回徳島女流美術協会展(あわぎんホール)、第31回藍美展(藍住町福祉センター)、第44回徳島市芸術祭美術展(シビックセンター)、第38回白鳳洋画グループ展(キョーエイ鳴門駅前店)
- 山口美千代 第30回洋画部会員展(あわぎんホール)
- 山口 明美 第30回洋画部会員展(あわぎんホール)
- 結城 栄子 第44回むアート展(阿波銀プラザ)
- 米沢 博 第22回徳島県健康福祉祭美術展(あわぎんホール)
- 和田 寿子 第44回徳島市芸術祭美術展(シビックセンター)、第30回洋画部会員展・第45回絵で見る徳島展・第48回画展ふるさと(あわぎんホール)
- 横井嘉世恵 第44回徳島市芸術祭美術展(シビックセンター)、第30回洋画部会員展(あわぎんホール)、東富田文化祭(東富田コミュニティーセンター)

写 真 部

部 会 長 上 野 照 文

年間展望

○第 24 回放美展（5 月 2 日（月）～5 月 6 日（金） あわぎんホール）

応募点数は 367 点で前回よりやや減ったが、応募作品のレベルは年々向上して、審査はなんとかした。そんな中、新しい視覚、表現が感ぜられる作品が選出された。

放美賞・板東よしお氏「夕暮れ時」は、鳴門に飛来するコウノトリの巣作りはシャッターチャンス逃がさず捕らえた秀作。

優秀賞・山上道子氏「進撃の少女」は、少女が大都会のビル群に挑むような構図で非現実的な印象に仕上げている。 山下修司氏「一瞬」は、フェンシングの瞬間を捉えた作品で、背景を単純化することで完成度を高めた。

梅岡トヨ賞（高校生・高専生の入選作品より選出）は、三木康代さん「青春ジャンプ」が受賞した。作品は、若者の生き生きとした後ろ姿が印象的。

四国大学賞（25 歳以下の入選作品より選出）は、大野元幹さん「スターライトパレード」が受賞した。飛行機が離陸する瞬間をシャッタースピードを生かした流し撮りで捉えた。

全体の印象としては、着眼点もよく、仕上げも良い作品が多くなっている中、プリント、パネル仕上げなどの悪い作品もあり、入選・入賞を逃した作品が見られた。

又、今回は会期中にトークショーも開設され、写真部委員井上憲治氏が、デジタル写真について映像をまじえて解説し、好評を得た。

放美賞	板東よしお「夕暮れ時」
優秀賞	幾田 茂仁・野藤みきよ・武田 幸代・板東美智代 水口 ゆみ・鈴江 純史・泉 清美・福井 純子 山上 道子・熊谷美智子・圓藤由貴子・山下 修司 増田 実・三谷美津子・高橋 一恵
四国大学賞	大野 元幹「スターライトパレード」
梅岡トヨ賞	三木 康代「青春ジャンプ」

放美展審査員（大和健司・増田 寿・橋本圭祐）

○第 71 回徳島県美術展（10 月 14 日（金）～19 日（水） あわぎんホール）

審査員には徳島県美術展で高校生 1 年生から応募し、招待作家になり、現在はプロ作家として、活躍されている写真家・三好和義先生をお招きし行われた。

71 回展より応募作品が 1 人 3 点より 5 点に増え、作品応募点数も 763 点（昨年度 571 点）と大幅に増え、入選も厳しいものとなった。

徳島県教育委員会教育長賞は、福永 豊氏「豊作祈願・虫おくり」が選ばれた。審査員評では、

「伝統行事を象徴的に捉え、エキゾチックさや時代を超えた面白さがある。レンズの選択もよく、安定感と動きの両方を併せ持った構図になった。行事に参加し、陶醉しながら撮った様子が伝わり、見る者の心を打つ。」

「良い写真は技術だけでなく、被写体に対する愛情や知識も大切だセンスや感性を磨くべきで、普段からカメラを持つか、また持たずとも写真を撮ることを考える目を養ってほしい」三好和義先生談

公開審査会場では、来場者に受賞作品を1点1点丁寧に、わかりやすく長時間解説していただきました。

徳島県教育委員会教育長賞

福永 豊 「豊作祈願・虫おくり」

特選

国見良行 「猫の楽園」

藤本良輔 「虹色の光跡」

多川静守 「スプレー」

準特選

山下修司・姫野博司・秋山修一・水口義行・吉村敏嗣・

須原仁志・大塚 尚・竹内好文・増田 実

奨励賞

日浦嘉孝・谷ひづる・水口ゆみ・大和章人・阿部啓三・

脇 俊二・大津勝治・長田貞男

○写真部撮影会（6月19日（日） 倉敷市美観地区）

毎年、恒例になっている写真部撮影会は倉敷市美観地区周辺を目的地に行った。バス1台約40名の参加者で、終日、撮影を楽しんだ

会員消息

◎日本風景写真協会（3月15日（火）～20（日）NHK 徳島放送局ロビー）

会員出品：岩崎 英昭・板東よしお・吉田 隆之

◎第47回ナルトぴんぼけクラブ写真展（3月18日（金）～21日（月）キョーエイ鳴門駅前店4F）

会員出品：木田 英之・武地 雅・賀川 泰広

◎日本風景写真協会（3月26日（土）～4月3日（日）上板町「技の館」

会員出品：岩崎 英昭・板東よしお・吉田 隆之

◎第2回徳島新光会写真展（4月1日（金）～3日（日）アミコシビックセンター 3F ギャラリー）

会員出品：佐藤 義雄・三木 理司・三谷美津子・光井 雅巳

◎徳島大学開放実践センタ写真講座修了展とその仲間展（4月1日（金）～4月4日（月）阿波銀プラザ）

◎第11回写好館クラブ 写真展（4月22日（金）～24日（日）ヨンデンプラザ徳島）

会員出品：岸田 佳一・山田 卓・木田 英之

◎第15回ニッコールクラブ徳島支部写真展（4月22日（金）～24日（日）アミコシビック

彫 刻 部

部 会 長 松 永 勉

年間展望

◎第 24 回放美展（平成 28 年 5 月 2 日（月）～6 日（金） あわぎんホール）

今回の出品総数は 24 点であった。そのうち受賞作品を含めた入選作品は、17 点になった。中でも、高校生の作品が 12 点あり、立体作品に取り組んでいる若い人のさまざまな感性が表れていた。その表現方法は新鮮で、素材の扱い方も面白いものが多数見られた。

審査評では、「素材や技法では多岐にわたって技術面でも向上している。一部概念的な表面描写にこだわった作品もあったが、受賞作は個性的で見ごたえのある習作が揃った。」と評価された。

放美賞を受賞した大貝貞雄さんの「心の模様」は、粘土を焼成した有機的形態の作品であった。作風は、女性の優しさをイメージさせ、量感あふれる形で心象表現したものである。特に、セラミックの技法を上手に生かした努力の跡が見られる作品であった。大貝さんは、昨年の優秀賞に続いての受賞となった。今後さらに発展させた作品を見せてほしいと思う。

優秀賞の横畠寛さんの「みずもの舞」は、木材を構成的に扱った作品で、自然の形を残し、それをうまく利用して動きを表現するという手法で、フォルムに生命感が溢れていた。素材の利用の仕方がよく、素朴な美しさが見える作品であった。

四国大学賞は、岡田みなみさんの「オオカミ」が選ばれた。動物の形が上手に表現されており、全体のバランスがよく取れた作品となっていた。高校生としての力作であった。

梅岡トヨ賞には、奥敬嗣さんの「赤富士」が選ばれた。この作品は、木の枝を集積して山の形に構成したものだ。木口だけを赤く塗り、木との対比が面白かった。コツコツと時間をかけ、富士山型に見せたところに、造成をするという強い意志が感じられる作品であった。

全体評としては、「若い高校生の意欲的な作品が多かった。今後の活躍に期待したい。また、彫刻制作には制約が多いが、立体表現のおもしろさを味わってほしい。」との評であった。

（今回の審査は、上月佳代、長岡強、松永勉が務めた）

◎第 71 回県美術展（平成 28 年 10 月 7 日（金）～12 日（水） あわぎんホール）

今回の審査員として、東京芸術大学教授で彫刻家の木戸修先生にお願いした。今年の出品総数は 22 点であった。そのうち入賞・入選作品には 13 点が選ばれた。総数では、前回より 3 点少ない。出品数は昨年より少ないが、入選作品の素材は多岐にわたり、それぞれが個性的な立体表現をしようとする意欲的な作品が目立っていた。

昨年より展示が 3 期制となり、そのため今回はこれまでより広い面積の展示場所になった。出品作品の中には大作もあって、広い空間の中で彫刻作品の展示ができるのはありがたいことだ。ゆとりのある空間は、彫刻の展示にとってそれぞれの形態をみるうえで、大事なことだと言える。木戸先生には、時間をかけて審査していただいた。審査後に、出品者に対して適切な

アドバイスをしてもらったことは、好感が持たれた。

審査評としては、「出品作品は、いろいろと現代的な素材を駆使し、独創的な試みでまとめたものが多く、楽しく審査することができた。」と述べられた。

特選「徳島市長賞」に選ばれた武田亜希子さんの「月の旋律」には、「幾つかの厚く長い鉄をプレスで円形に曲げて、組み合わせた力作である。月の動きや満ち欠けを連想させる。全体に伸び伸びとしていて、バランスが取れ、力強い印象。優れた技術力を発揮している。完成度が高い。」との評価をいただいた。武田さんは、ずっと鉄材を扱う構成的抽象彫刻で、これまで数多くの作品を発表している。今回は特に、厚板材を使った大作で迫力を感じた。特選特別賞にふさわしい力作であった。今回審査を受ける最後の出品となったが、これからも続けて飛躍されることを期待したい。

準特選の岡田みなみさんの作品「フクロウとクリコ」に対しては、「二つの石膏の像で、人物の方は若者らしさが表現されている。一方、フクロウはもう少し観察して、羽毛の柔らかさなどを巧みに表現できれば、一層良い作品になった。」との評価であった。岡田さんの作品には、純粋に対象物を表現しようとする姿勢がみられた。具象表現の中に二つのものを対比させ、物語的思考で自分の世界を作り出そうとするところが良かった。細部も丁寧に作られていた。まだ高校生なので、今後も制作を続けて、さらに発展させてほしい。

同じ準特選に選ばれた東光司さんの作品「刻まれた風景」については、「ピラミッドやインカ帝国の石積みなどの古代建築物を連想させる作品。抜群の構成力で、小さい作品ながらもイメージを豊かにしてくれる。石の削り方がうまく、作者の技術の確かさがうかがわれる。」と言われた。東さんは、前回も準特選を受賞しており、連続の受賞である。長く石材を扱った制作活動が続けており、今回のような作風で評価を受けている作家だ。確かな技術力を持ち、意欲的に取り組んだ結果の受賞と言える。

奨励賞は、横畠寛さんの「三郎の営み」とトラビス・フリンクさんの「Broken System」が選ばれた。横畠さんの作品は、川面の風景を造形化した独自の表現スタイルを見せていた。また、トラビスさんの作品は、ガラスを使って球を持った腕の透明感のある表現が特徴的であった。

全体評としては、「出品作を見渡すと、木彫が目立った。木は彫刻にとって魅力ある素材だが、素材それ自身に頼りすぎてはいけない。何かを表現しようとする場合、どう制作すればいいのかという造形的な意識をはっきりさせることが必要。また、落選作の中に、若さに満ちた作品があった。くじけず制作に打ち込んでほしい。」と話された。

◎県美術家協会彫刻部会展（平成 28 年 6 月 29 日（水）～7 月 3 日（日） 阿波銀プラザ）

今回は、3 年半ぶりに彫刻部会展を開催した。県展や放美展に出品している県内の作家 21 名が参加して、25 点の作品が並べられた。彫刻部会では、会員や彫刻を制作している作家がお互いの交流と研究の場として、数年おきに部会展を開いている。県内の彫刻家が日頃の成果を発表し、多くの愛好家に見ていただくことで、活動の刺激となり、制作の糧とすることを目的としている。今回も出品者間の交流を深めるための懇親会を持つことができ、意義ある会にすることができた。

会員消息 (県展・放美展関係は除く。順不同)

居上 真人	6 月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	7 月	現代彫刻小品展 in 浜田出品	浜田市世界こども美術館
	7 月～ 9 月	LANDSCAPE 徳島彫刻集団と香川の交流展	高松市塩江美術館
	8 月～ 9 月	現代彫刻小品展 in 横田町	島根県奥出雲町
	9 月	第 101 回二科展出品	国立新美術館
	10 月～ 11 月	第 54 回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	11 月	徳島市・小松島市の個人宅に作品設置	
井下 俊作	6 月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	7 月	兵庫県彫刻家連盟創立 45 周年記念展	兵庫県民会館
	7 月～ 9 月	LANDSCAPE 徳島彫刻集団と香川の交流展	高松市塩江美術館
	10 月～ 11 月	第 54 回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	11 月	第 54 回徳島彫刻集団野外展作品移動	那賀町あいあいランド
大津 文昭	7 月～ 9 月	LANDSCAPE 徳島彫刻集団と香川の交流展	高松市塩江美術館
	10 月～ 11 月	第 54 回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
河崎 良行	1 月	みゆき画廊 50 周年記念展	東京都銀座みゆき画廊
	3 月	現代日本彫刻作家展	東京都美術館
	3 月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	6 月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	8 月	第 31 回徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	9 月	花とみどり・いのちと心展	国営昭和記念公園
	10 月	第 70 回記念二紀展	国立新美術館
鎌田 邦宏	3 月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	4 月	第 7 回二紀会会員彫刻展	東京銀座ギャラリー青羅
	6 月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	7 月	現代彫刻小品展 in 浜田	浜田市世界こども美術館
	8 月	第 31 回徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	8 月～ 9 月	現代彫刻小品展 in 横田町	島根県奥出雲町
	10 月	第 70 回記念二紀展	国立新美術館
木村 大志	3 月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	6 月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	7 月	現代彫刻小品展 in 浜田	浜田市世界こども美術館

	8月～9月	現代彫刻小品展 in 横田町	島根県奥出雲町
上月 佳代	2月	第44回徳島市芸術祭美術展	シビックセンター
	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	4月	第7回二紀会会員彫刻展	東京銀座ギャラリー青羅
	5月	公募団体ベストセレクション2016	東京都美術館
	5月	第7回女子美術大学同窓会徳島支部小品展	HIRAOKA ギャラリー
	6月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	8月	第31回徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	10月	第70回記念二紀展	国立新美術館
近藤 美暁	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	8月	第31回徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	10月	第70回記念二紀展	国立新美術館
佐藤 隆	6月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	7月～9月	LANDSCAPE 徳島彫刻集団と香川の交流展	高松市塩江美術館
	10月～11月	第54回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
武田亜希子	3月	春季徳島二紀展	阿波銀プラザ
	6月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	7月	現代彫刻小品展 in 浜田	浜田市世界こども美術館
	8月	第31回徳島二紀展	徳島県立近代美術館
	8月～9月	現代彫刻小品展 in 横田町	島根県奥出雲町
	10月	第70回記念二紀展 準会員優賞	国立新美術館
	12月	武田亜希子展	ギャラリー喫茶 GRACE
	12月	YEAR-END EXHIBITION OF MINI SCULPTURES	ギャラリーせいほう
	12月	第45回歳末チャリティ作品・色紙即売展	徳島そごう
長岡 強	4月	第46回日彫展 会員出品	東京都美術館
	11月	改組新第3回日展 会員出品	国立新美術館
林 一美	2月	同好会展出品	ホテルサンシャイン徳島
東 光司	4月	第66回モダンアート展	東京都美術館
	5月	第66回モダンアート展	福岡市美術館
	6月	第66回モダンアート展	愛知県美術館
	6月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ

	7 月	第 66 回モダンアート展	京都市美術館
	10 月	第 35 回関西モダンアート展	奈良県文化会館
	10 月	2016 年度モダンアート受賞作家展	東京都ギャラリー檜
松永 勉	2 月	第 44 回徳島市芸術祭美術展 特別出品	シビックセンター
	5 月	阿波銀行福島支店新築記念松永勉彫刻展	阿波銀行福島支店
	6 月	松永勉彫刻個展	徳島市田岡病院ギャラリー
	6 月	徳島県美術家協会彫刻部会展	阿波銀プラザ
	6 月	近鉄霞が関ビルエントランス（風景の協奏）設置	東京都
	7 月	現代彫刻小品展 in 浜田	浜田市世界こども美術館
	7 月～ 9 月	LANDSCAPE 徳島彫刻集団と香川の交流展	高松市塩江美術館
	7 月	兵庫県彫刻家連盟創立 45 周年記念展	兵庫県民会館
	8 月～ 9 月	現代彫刻小品展 in 横田町	島根県奥出雲町
	9 月	第 71 回行動展 会員出品	国立新美術館
	9 月	北島酸素株式会社に「風景のはじまり」設置	徳島市
	10 月	第 71 回行動展大阪巡回展	大阪市立美術館
	10 月～ 11 月	第 54 回徳島彫刻集団野外彫刻展	徳島中央公園
	12 月	YEAR-END EXHIBITION OF MINI SCULPTURES	ギャラリーせいほう

美術工芸部

部会長 多智花 佐代子

年間展望

◎第24回放美展 5月2日(月)～6日(金) あわぎんホール

出品数は前回より4点多い130点、出品者も4人増の93人であった。ジャンル別では一番多いのが陶磁作品の57点、次に押し花の18点、パッチワーク14点、以下木竹かずら、ガラス、染織、紙……の順であり、昨年より各種別それぞれに力作が多かったように感じた。

130点の中からまず入選ラインの87点を選び、その中から種別にも考慮しながら受賞作品の8点を決定した。

放美賞	手塚 健一(陶磁)	希望の明かり
優秀賞	近藤佐起江(押し花)	CONCEPTION(発想)
	松永 卓司(ガラス)	花器 日の出
	家形笑美子(かずら)	はずむ心
	前川 政秀(紙工)	アンドン そのI
	中島美和子(パッチワーク)	丸窓に集う格子 遊々
四国大学賞	長谷川正龍(陶磁)	旅立ち
梅岡トヨ賞	小原 愛里(押し花)	紅(くれない)

放美賞の手塚健一さん「希望の明かり」は、力強い肩の張り口と口のフォルムの形成がすばらしく、「明かり」を表現した赤色もブルーグレイの本体とよく調和し、作者の心情を強く感じることの出来る秀作であった。

優秀賞5点の中では、中島美和子さんの作品が古布を使い、丸と四角だけの構成でありながら、そのリズム感がこちよく心に響いた。

四国大学賞の長谷川正龍さんは、初出品の高校生ながら大きな陶芸作品での受賞。これからは模倣や小手先だけの仕事でなく、若者らしい自由な発想で自分の世界を表現して欲しいと願う。

前回展より力作が多くあってよかったのだが、出品作品の中にごく少数ながら、創作性を感じられないものがあり、残念に思った。モチーフのどこに感動し、見る人にそれをどう伝えるか……。作者の心と素材の選択、そして持てる技でオリジナルの作品を制作してほしい。

審査員は松下雄介(陶磁)、斎藤和彦(金工)、多智花佐代子(染織)でした。

放美展の新しい試みとして、美術工芸部では委員の森賢一さんを講師に、「木目の美～空張り実演」を開催し、展覽会場から少し離れた4F会議室でたくさんの方々に、地場産業である空張りの熟練した技を身近で見てもらった。実施までには大変な労力を要したものと察するが、よい試みであったのではないだろうか。関係各位に感謝したい。

◎第71回県美術展 10月14日(金)～19日(水) あわぎんホール

今回の応募点数は166点(前回161点)、出品者は117人(前回112人)であり、前々回とほぼ同数であった。応募総数の43%(72点)は陶芸作品であり、次に押し花24点、パッチワーク18点、木竹かずら、染織、ガラスが同数の14点、以下ずっと少数ながら人形、紙、革、金工の順であった。

審査は、京都市立芸術大学名誉教授で日本芸術院会員の中井貞次先生(染)にお願いした。徳島県展の審査は14年ぶり3度目で、国文祭の折にも審査で来られており、ご自身が徳島の藍を使って制作されていることもあって、何かとご縁の深い先生である。

審査前に会場を一巡されて、「藍の本場であるのに、藍の作品がとても少ないですね……」と残念そうにおっしゃった。

じっくりと審査会場の各作品と対峙されて三巡した後に、入選と受賞候補作品18点を合わせた97点が選ばれた。

その後、別室での休憩時間に、「審査が始まってすぐから、この作品を大きな賞にと考えているものがあったのですが、その後見れば見る程魅力的な作品が出て来ました。もう少しここをどうにかすれば……」と思える作品ですが、将来どう変化してゆくか、その伸びしろを考えると、賞が入れ替わるかもしれません」と呟かれた。

審査会場に戻られた中井先生は、18点の受賞候補作品を前にして、種別ごとに2、3点ずつを比較し、詳しく理由を説明された上で9点の作品を選び、各賞を決められた。長時間にわたり、熱心に審査を見守っていた多くの出品者の方々にも、有意義な勉強の機会となり、先生の総評が終わった時には大きな拍手が会場いっぱいに鳴り響き、感動的であった。

特 選 (徳島新聞社長賞)

藤井 哲信(ガラス) 宙吹きガラス器「海淵」

特 選 越 由子(パッチワーク) 空へ

準特選 家形笑美子(かずら) はずむ心Ⅱ

田村栄一郎(陶磁) 想昇

福本美智代(パッチワーク) 光のかけら

久保 英樹(陶磁) 泥彩花器

奨励賞 長尾 敏子(ガラス) 硝華

長谷川正龍(陶磁) 満天の星空

前野 亮治(織) まゆの詩

県展が3期になって2年目となったが、会場は広くなったものの全体的な盛り上がりには欠けるような気がするし、一般の方からも毎週3度も来られないとの声も多く耳にする。知恵を出し合って2期に戻した方が良く感じた。

◎最後となりましたが、昨秋に美術工芸部委員の森明治さんが、県知事表彰を受け『阿波の名工』に認定されました。伝統に培われた大谷焼による大物造りの技が高く評価されての受賞であり、

大変喜ばしく思うと同時に、これからも徳島の美術工芸をしっかりと牽引してくれることを切に願いたい。

会員消息（県展・放美展は除く）

松下 慶一	・松下慶一作陶展	4月	高松三越
藤井 哲信	・第55回日本クラフト展	1月	東京ミッドタウン・デザインハブ
	・第24回テーブルウェア大賞	1月	東京ドーム
	・藤井哲信ガラス展	4月	萩の庵（協町）
	・第59回伝統工芸四国展	10月	高松三越
斎藤 和彦	・日本七宝作家協会 国際展	7月	東京都美術館
丸居 哲雄	・ゆるい展	4月	県立近代美術館
	・現代クラフト展	9月	あわぎんホール
	・エナジー展 2016	10月	県立近代美術館
	・上板町民文化祭	11月	上板町中央公民館
大貝 貞雄	・第44回徳島市美術展（招待）	2月	シビックセンター
	・第44回県手工芸展（招待）	11月	あわぎんホール
大貝 寿子	・第44回徳島市美術展（招待）	2月	シビックセンター
	・第44回県手工芸展（賛助出品）	11月	あわぎんホール
野村 裕子	・第10回法花教室作品展	5月	県立近代美術館
田村栄一郎	・有田国際陶磁展	4月	佐賀県立九州陶磁文化館
鳥井 明子	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
森 明治	・徳島県卓越技能者 阿波の名工表彰	11月	徳島県庁
矢野 款一	・日本工芸会正会員展	5月	日本橋三越
	・日本工芸会四国支部展	10月	高松三越
	・矢野款一・祐志陶芸展	12月	徳島そごう
西 浩子	・第7回徳島女流美術展	5月	あわぎんホール
森 賢一	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・改組新第3回日展	10月	国立新美術館
四十宮年代	・第44回徳島市芸術祭美術展（特別出品）	2月	シビックセンター
	・第45回歳末チャリティー作品・色紙即売展	12月	徳島そごう
越 由子	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・改組新第3回日展	10月	国立新美術館
内藤 久子	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・第44回県手工芸展	11月	あわぎんホール
	・第1回夢のはなパッチワークキルト展	11月	あわぎんホール
横井嘉世恵	・第44回徳島市芸術祭美術展（招待）	2月	シビックセンター

	・東富田公民館文化祭	9月	東富田コミセン
	・宮本薫グループ展 押し花・手あみ作品展	9月	あわぎんプラザ
龍木 秀子	・第55回日本現代工芸美術展（現代工芸賞）	4月	東京都美術館
	・改組新第3回日展	10月	国立新美術館
前野 亮治	・いのちのいろいろ展	4月	水景園・ギャラリー月の庭(京都)
	・Renate Maak, Inge Pock さんとのテキスタイルアート展	7月	STEIERMARKHOF (オーストリア・グラーツ)
山本 由美	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・第13回きものの街のキルト展	9月	十日町市商店街
近藤佐起江	・第28回全国手工芸コンクールinひょうご（兵庫県連合婦人会賞）	10月	兵庫県民会館
近藤美佐子	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・第44回県手工芸展	11月	あわぎんホール
吉田 眞弓	・第1回夢のはなパッチワークキルト展	11月	あわぎんホール
平井 恵子	・創立70周年記念京都工芸美術作家協会展	3月	京都文化博物館
	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・かんじる比良2016	5月	北比良「森の家」
	・第67回大津市美術展覧会	7月	大津市歴史博物館
	・第48回滋賀県工芸美術協会展	10月	滋賀県立近代美術館
	・改組新第3回日展	10月	国立新美術館
天野 和子	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・第44回県手工芸展	11月	あわぎんホール
	・第1回夢のはなパッチワークキルト展	11月	あわぎんホール
福本美智代	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・第44回県手工芸展	11月	あわぎんホール
	・第1回夢のはなパッチワークキルト展	11月	あわぎんホール
多智花佐代子	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館
	・改組新第3回日展	10月	国立新美術館
家形笑美子	・第55回日本現代工芸美術展	4月	東京都美術館

書 道 部

部 会 長 荒 井 彭 仙

年間展望

◎第 24 回放美展（5 月 2 日（月）～ 6 日（金）あわぎんホール）

応募数は 221 点、応募人数 184 名（前回 181 点、151 名）であり、40 点 33 名の増加となった。（一般 111 点、学生 110 点）と出品の半数を学生達が占めることになり、初々しいチャレンジ精神とベテランの気迫に充ちた作品が相互に会場を盛り上げるものになった。

放美展の趣旨「作品を通じての交流を図るとともに創作する喜びや鑑賞する楽しさが味わえる開かれた美術展」に基づき、七部門において会期中における部門ごとの催しが提案された。書道部はギャラリートーク。隅田英二先生が担当された。書展における「書の楽しみ方・味わい方」を織り交ぜながら展示作品の見どころも案内され、30 分ほどのトークは一般の方にも関係者にも快い鑑賞タイムとなった。

展示は放美賞 1 点、優秀賞 9 点、四国大学賞 1 点、梅岡トヨ賞 1 点、入選 108 点に審査員 3 点を合わせて 123 点となった。

（梅岡トヨ賞：高校生対象）

（四国大学賞：25才以下の方対象）

審査員：隅田英二・富久鳴泉・日下溪翠

◎第 71 回県美術展（第 3 期 10 月 21 日（金）～ 26 日（水）あわぎんホール）

今回の応募数は 790 点、応募人数 475 名（前回 755 点、452 名）であり、35 点、23 名の増となった。（漢+7、仮+11、近+1、前+16）数字的には昨年までの連続減少を改善するものではなかったが、今回はわずかな増加でもって一息つくことができた。

審査員は西嶋慎一・山根互清・渡部會山の三先生であった。各部門ともバラエティーに富んだ作品が選出されたものの、各会派・流派の特徴が鮮明な中で、力作ながら類型揃いの作品群には苦慮。審査員泣かせになったようである。

昨年に引き続き会期構成が 3 期に分けられ、書道部は第 3 期の開催であった。発展と充実を求めている案であるが、県展全体にとってはどうなのか？書道部にとってはどうなのか？只今、模索中である。

会員の計報

○H28. 11. 19 西 南龍先生（88） 美協書道部常任委員・清潮会会長
元美協副会長

教育者としての一生。多くの要職を歴任する傍ら書道教育の普及・発展に貢献され、終盤は二期にわたり（H.23～H.26）県美協副会長の大役を担われました。

ご冥福をお祈りいたします。

- H29. 1. 15 岡島 順子先生（85） 美協書道部委員・書研社参与
膝・脚の治療養生中、体調を崩されての他界となりました。
ご冥福をお祈りいたします。

◎社中展・個展等

○チャレンジとくしま芸術祭2016	近代美術館	1月19日～	31日
○第40回記念東玄書道会展	阿波銀プラザ	2月 5日～	7日
○第36回書研社展	アミコシビックセンター	3月 4日～	6日
○第30回記念正鋒会書展	あわぎんホール	3月11日～	13日
○第50回清潮書作記念展	あわぎんホール	3月18日～	20日
○第1回徳島玄心会書展	県立文学書道館	3月25日～	27日
○第23回歌の会書作展	県立文学書道館	4月 7日～	9日
○第38回泉心会書作展	県立文学書道館	4月15日～	17日
○第44回光輪社書作展	あわぎんホール	4月15日～	17日
○第46回直心会書展	あわぎんホール	5月20日～	22日
○第10回幽の会書展	アミコシビックセンター	5月20日～	22日
○第61回成蹊書道会展	アミコシビックセンター	6月10日～	12日
○第13回五果会書道展	県立文学書道館	6月10日～	12日
○第20回せゝらぎ書展	県立文学書道館	6月17日～	19日
○岩本志豪・高瀬大峯現代書二人展	アミコシビックセンター	6月17日～	19日
○第2回和光社書展	アミコシビックセンター	7月15日～	17日
○第29回長玄書道会展	阿波銀プラザ	7月29日～	31日
○第5回青藍会書作展	あわぎんホール	8月26日～	28日
○第81回書芸院展	あわぎんホール	9月 1日～	4日
○第61回書協人展	あわぎんホール	9月16日～	18日
○第12回向井京子三世代書展	阿波踊り竹人形時代屋ギャラリー	10月23日～	11月13日
○第21回尚真書展	あわぎんホール	10月28日～	30日
○第6回琴清会書展	アミコシビックセンター	11月18日～	20日
○第46回芳藍書道展	四国大学交流プラザ	11月25日～	27日
○第6回虹光会書展	県立文学書道館	11月25日～	27日

○平成28年度高校教員書道展	県立文学書道館	12月 2日 ～	4日
○第37回臨池書展	アミコシビックセンター	12月 3日 ～	4日
○第22回六書会書展	アミコシビックセンター	12月 9日 ～	11日

会員消息（県展・放美展・社中展は除く）

役員で出品した人・入賞者（平成28年1月から12月）順不同

○第57回太玄会書展（東京都美術館 1/18～23）

薫 事 春藤大耿
 理事・実行委員 中尾勝子・富久鳴泉・西谷香峰・南 溪石
 理 事 岡島順子・下村清子
 審 査 会 員 瀬藤豊子

○第47回正筆会 菁華書作展（東京銀座画廊美術館 1/22～24）

常任総務理事 亀石文苑
 総 務 理 事 竹田和代

○第52回創玄展（国立新美術館 3/3～13・東京都美術館 3/10～17）

一 科 審 査 員 荒井彭仙・長原阜聖・玉城乾香・浜 佳香
 二 科 審 査 員 永松春苑・多田清芳・岩本志豪
 審 査 会 員 吉田和婉・丸岡香貞・平岡幽琴・岸 緑香・朝三阜如・長原阜月
 山口幽径・大西清葩・岡崎啓香・高瀬大峯・佐藤恵和・武田玲香・
 蓑毛翠琴
 特 選 児玉幸子
 秀 逸 川端康清・玉城乾舞・野田満代・富永美祥
 二 科 賞 金城泰苑・清水香凜・坂東裕美
 準 二 科 賞 向井乾星・高橋乾桜・森 香妍・大井多栄・藤原乾心

○第78回謙慎書道会展（東京都美術館 3/20～28）（池袋サンプラザ文化会館 3/19～27）

常 任 理 事 米澤東籬

○第51回雪心会展（奈良県文化会館 3/24～27）

F ク ラ ス 青木東原

○第70回日本書芸院展（大阪市立美術館 4/5～10、6/21～6/26）（大阪国際会議場 4/20～24）

参 与 東 南光・薄田玲泉・能仁華瑤
 評 議 員 亀石文苑・伊丹東龍・辻 紅雲
 一科審査会員 清水桂月・青木東原・河野真流・宮守崇流・上田輝芳・森 光翔
 松永翠月・八木藍玉・竹田和代・赤川景舟・井上虹雨・古川秀蕙

	川村春琴・吉田翠彩・福永美泉・倉本景雨・加村喜美子
二科審査会員	山本景琴・横田典子・佐野収華・河野多美・佐川菁流・松本景芳 背川景玲・井上景玄・阿部博子・谷 玲琴・戸出芳泉・中西瑤汀 林 美雪・石井祥洸・丸岡春暁・忠津玉燕・田中子葉・四宮千春 後藤佳美・稲木裕美・皆谷芳穂・寺尾俊通
史 邑 賞	福家美鵬・上田輝芳
大 賞	河野多美・林 美雪・佐藤光濠・浅川蘭舟・稲木裕美・佐川菁流 背川景玲・山本景琴
特 別 賞	吉村敬子・大本華越・岡部比登美・吉岡春鵬・高橋芳琴・折野佳子 杉本裕子
準 特 別 賞	一宮堆川・恵美春陽・田村元帥・伊藤景風
特 選	大下江波・上野益泉・大野娟鳳
一科会員推薦賞	杉本香苑・田中紫苑
二科会員推薦賞	谷本真由美・野口有香・板東亜美

○第 40 回由源全国書道展（大阪市立美術館 5/24 ～ 5/29）

常 任 無 鑑 査	川村春琴
常 任 委 員	谷 玲琴・丸岡春暁・中村春岳

○第 44 回日本の書展（大阪国際会議場 5/27 ～ 29）

招 待	東 南光・能仁華瑤・清水桂月・薄田玲泉・河野真流・上田輝芳 宮守崇流・川村春琴・井上虹雨・辻 紅雲
秀 抜 選	武市鳴雲・赤川景舟・倉本景雨・森 光翔・山本景琴・佐川菁流 井上景玄・背川景玲・松本景芳・福家美鵬・戸出芳泉・皆谷芳穂

○第 5 回薊友会書展（東京銀座画廊美術館 6/7 ～ 12）

大 作 作 家	米澤東籬
---------	------

○第 40 回国美藝術展（東京都美術館 6/22 ～ 27）

書道芸術文化賞	奥田文園
---------	------

○第 68 回朝陽書道会展（岡山県天神山文化プラザ 6/24 ～ 26）

副 理 事 長	薄田玲泉
常 任 総 務	河野真流・上田輝芳・井上虹雨・宮守崇流
常 任 理 事	赤川景舟・倉本景雨・佐川菁流・竹内虹舟・森 光翔・山本景琴 井上景玄・背川景玲・松本景芳・皆谷芳穂

○第 54 回水穂書展（京都市美術館 6/24 ～ 26）

総 務	東 弥生・向井京子
理 事	森崎玉鈴・伊藤景風

秀 作 賞 伊藤景風

○第 56 回墨滴会全国書道展（大阪市立美術館 6/28 ～ 7/3）

理 事 戸出芳泉

○第 30 回玄心書道展（デザイン・クリエイティブセンター神戸 6/30 ～ 7/3）

参 与 浅川蘭舟

常任総務理事 辻 紅雲・古川秀蕙

総 務 理 事 福家美鵬

○第 68 回毎日展（国立新美術館 7/6 ～ 31）（愛媛県立美術館 8/10 ～ 14）

審 査 会 員 荒井彭仙・玉城乾香

会 員 長原皐聖・永松春苑・浜 佳香・多田清芳・岩本志豪・吉田和婉
平岡幽琴・長原皐月・蓑毛翠琴

秀 作 高瀬大峯・佐藤恵和・玉城乾舞・大西清葩（大）

佳 作 岡崎啓香（漢）・武田玲香

○第 33 回読売書法展（国立新美術館 8/19 ～ 28）（サンメッセ香川 10/28 ～ 30）

参 与 清水桂月

理 事 東 南光・東 弥生・能仁華瑤・薄田玲泉・河野真流・伊丹東龍
上田輝芳・亀石文苑・宮守崇流・辻 紅雲・林 美雪・古川秀蕙
川村春琴・米澤東籬・井上虹雨・河野多美・竹田和代

幹 事 倉本景雨・竹内虹舟・佐川菁流・山本景琴・井上景玄・背川景玲
松永翠月・佐野収華・青木東原・福家美鵬・森 光翔・松本景芳
吉田翠彩・福永美泉・赤川景舟・皆谷芳穂・加村喜美子・佐藤光滌
評 議 員 内田麻紀・高柳早秀・阿部博子・杉本裕子・浅川蘭舟・高橋芳琴
廣瀬蕙花・岡部比登美・鈴木恵理・石井祥洸・忠津玉燕・田中子葉
四宮千春

読 売 俊 英 賞 福永美泉

読 売 奨 励 賞 四宮千春・廣瀬蕙花

特 選 田村元帥・稲木裕美・原口栄香

秀 逸 丸岡春暁・上野益泉・節 爽韻・小林青藤・住友春陽・高木美賀子
井上小百合・向井境子

○第 11 回日本書道学院選抜展（9/27 ～ 10/2）

常 任 理 事 薄田玲泉・河野真流

理 事 赤川景舟・井上景玄・井上虹雨・上田輝芳・倉本景雨・佐川菁流
住友春陽・背川景玲・竹内虹舟・高橋芳琴・一ツ松真弓・廣瀬蕙花
宮守崇流・森 光翔・山本景琴

○改組新第3回日展（国立新美術館 10/28～12/4）

入 選 亀石文苑・田村元帥・吉田翠彩・森 光翔・廣瀬蕙花・向井京子

○第42回創玄現代書展（セントラルミュージアム銀座 11/1～6）

入 選 吉田和婉・平岡幽琴

○第32回国際蘭亭筆会展（韓国・慶州芸術 殿堂 11/1～6）

国際蘭亭筆会展副会長 東 南光

○高野山開創千二百年記念奉賛献書展（堂島リバーフォーラム 11/8～13）

推 薦 作 家 玉城乾香

○第56回璞社展（大阪市立美術館 11/29～12/4）

顧 問 春藤大耿・清水桂月

参 事 東 南光

参 与 武市鳴雲・豊浦春光・花本清香・馬居李帆

常 任 理 事 能仁華瑤・八木藍玉・松永翠月・横田典子・林 美雪・河野多美
鈴木恵理

理 事 田上洋香・野口有香・弘田長風・伊藤景風・大本華越・岡部比登美
佐野収華・恵美春陽・高柳早秀・片山芳明・南 溪石

幹 事 上田美智・谷本真由美・井上加芳・稲井華風・磯川味佳・服部紫光
伊達静蘭・中西瑤汀・奥田翠香

璞 社 役 員 賞 一宮堆川

特 別 賞 島 祥瑤

優 秀 賞 高橋信華

特 選 田中紫苑・板東一男

秀 逸 瀬山花郷

○第68回正筆展

常 任 理 事 内田麻紀・齋藤弥生・高木美賀子・脇坂 優・笠原三雨・菖蒲和風
理 事 有持恵美子・和泉和舟・田岡佐記子・畠山政子・三宅葉子
藤井三樹子・山橋不二子・今津英子・日下壽美子・坂本恵美
林 桂翠

正 筆 賞 和泉和舟

神戸新聞社賞 日下壽美子

○第16回扶桑印社展（セントラルミュージアム銀座 12/6～11）

準 同 人 蓑毛翠琴

※各社中からの報告を受けて掲載しています。

個人（県内社中に無所属）の方で報告がある場合は掲載内容を12月末に部会長まで御寄稿下さい
（書道部）

デザイン部

部会長 田 中 一 郎

年間展望

◎第 24 回放美展（5 月 2 日（月）～6 日（金）あわぎんホール）

15 の高校の 97 名の生徒から 105 点、2 大学の 6 名の学生から 7 点、そして、一般の方 9 名から 11 点の合計 112 名、123 点の出品があった。

審査には、美協デザイン部会員の敷島のり子、坂野美恵子、四十宮隆志の 3 名があたった。放美賞の定國茉奈「発現」は、まだ見ぬ自分の将来の可能性を具現化しようとする試みとその造形力が目を引いた。優秀賞には、山野井宏宗（部会員）「Abeno mix? II ～ヒロガルカクサ～」、田村あい（部会員）「Japanese Dancer」、松島早紀「共存?」、村田佳奈子「見ざる聞かざる言わざる」、山本真子「THE KING」が、アイデアの面白さと、確かな表現技術を評価された。四国大学賞には島田千聖「DIVE?」、また、梅岡トヨ賞には、石川由佳「夢占い」が、視点の新鮮さと将来性を評価された。併せて入選 40 点、無鑑査 1 点、審査員 3 点の計 52 点が展示された。

今回、初めての試みとして、表彰式の終了後にデザイン部門の展示スペースにおいて、出品者や一般の方を対象としたギャラリートークが行われた。審査員の四十宮隆志（部会員）が展示作品を前に、そのアイデアや造形性、色彩など評価された点を丁寧に分かりやすく解説し、20 名ほどの方々が熱心にトークに参加していただいた。

◎第 71 回徳島県美術展（第 2 期 10 月 14 日（金）～19 日（水）あわぎんホール）

出品人数 39 人、出品点数 58 点。ここ数年、60 点前後で定着してしまった感があるのが残念である。

審査員には、日本グラフィックデザイナー協会（JAGDA）会員で、東京芸術大学デザイン科教授の松下 計氏をお迎えし、特選 2 点、準特選 3 点、奨励賞 3 点、入選 27 点の計 35 点を選出していただいた。

特選（県美術家協会会長賞）には、田中見那美「happiness」が選ばれた。「センスの良い色使いや形の面白さと構成。絵画的だが、有機的な形で人とつながっていきこうという前向きなメッセージが感じられる。」と高く評価された。同じく特選の埴渕照二「あれ！おいしいよ！」は「絵心が高く、うまい。自分で伝える内容を絞ってコミュニケーションをとろうとしている姿勢が感じられる。」と評価された。準特選には、岡田典子「にゃおん精舎」、佐藤あすか「あるわたし」、中西絢樹「THE CHOICE」、奨励賞には、佐々木奏美（部会員）「STOP!! 森林破壊」、森 風斗「そろそろ私たち進化しようと思います」、南 絵里佳「いのちの木」が選ばれ、入選の中には部

会員の斎藤志津子「Tree of Life」、田村あい(2点)「On the wind」「息辛い」、山野井宏宗「Wishes~願い~」が選ばれた。

松下審査員からは「パソコンが普及する中、手で仕事をするを大切にしている雰囲気があり、絵画的なアプローチで高い熱量で仕事をしている力作が目立った。多くの展覧会を巡って目を肥やし、飛躍してほしい。」との激励をいただいた。

入賞、入選に加え、特別出品の坂本三千一、福井 章、田中一郎、招待の斎藤繁次、坂野美恵子、敷島のり子、斎藤 剛、無鑑査の四十宮隆志の8点を併せて計43点が展示された。

◎坂本三千一氏が平成28年度徳島県文化賞を受賞

元デザイン部会長で、現デザイン部理事の坂本三千一氏が平成28年11月15日(火)徳島県庁において、平成28年度徳島県文化賞を受賞されました。

坂本氏は、昭和33年に四国放送(株)に入社。報道制作局美術部において、永年、放送番組の美術制作に取り組む傍ら、(公社)日本グラフィックデザイナー協会の正会員として意欲的に作品制作を続け、昭和55年には第14回徳島県芸術祭美術第一部門の優秀賞を受賞したほか、徳島県美術展(特選3回受賞)をはじめ国内外の展覧会への出品、個展の開催など積極的な文化活動を行ってきました。文化の森総合公園のシンボルマーク、美馬市や吉野川市の市章の選考委員を務めたほか、東四国国体やねりんピックをはじめ、第22回国民文化祭・とくしま2007など、本県が主催する大規模イベントの開催にあたって企画委員として尽力するなど行政へも大きな貢献をされました。

平成4年に始まった放美展の立ち上げや審査に携わり、県美術家協会デザイン部会長として後進の育成にも力を注ぎ、平成17年に徳島県知事表彰、平成22年に地域文化功労者文部科学大臣表彰を受賞されました。

現在も平和や環境など様々なテーマによる制作を続けており、本県のデザイン界のリーダーとして、美術・デザインをはじめ文化振興に果たす役割は大きなものがあります。

合わせて徳島県主催による平成28年度徳島県文化賞受賞記念「坂本三千一氏デザイン・ポスター展」が、平成28年11月13日(日)から16日(水)まで、あわぎんホール2階特別展示室において開催され、初期から現在までのポスター作品約20点が展示公開されました。

(平成28年度徳島県文化賞表彰録より一部抜粋)

会員消息 (県美術展・放美展は除く)

■天羽宏美

4月 はな・はる・フェスタ in 野外ポスター展〜ここのいろ〜1点出品

〔ポスターギャラリー実行委員会〕（於：しんまちボードウォーク）

5月 「9Colors ポスター展」1点出品（はな・はると同内容）

〔JAGDA 徳島地区+美協デザイン部〕（於：徳島市立図書館ギャラリー）

■斎藤繁次

11月 藍美展 （於：藍住町福祉センター）

12月 斎藤繁次個展～箱絵と楽しいおめんたち～

（於：那賀川町 喫茶 COFFEE WORKS KONOBU）

■斎藤志津子

8月 斎藤志津子イラスト展 ～ HOLIDAYS ～（於：上板町 喫茶 Brisa）

9月 斎藤志津子イラスト展 ～ HOLIDAYS ～

（於：那賀川町 喫茶 COFFEE WORKS KONOBU）

11月 藍美展 （於：藍住町福祉センター）

■坂野美恵子

7月 第101回二科展デザイン部門審査員 （於：東京 国立新美術館）

11月 第35回徳島県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門 講師及び審査員
（於：あわぎんホール）

11月 徳島県 藍・食藍推進プロジェクト審査員 （於：徳島県庁）

11月 徳島県自衛官募集啓発ポスター審査員 （於：徳島県庁）

■坂本三千一

9月 坂本三千一デザイン・ポスター展 （於：阿波銀プラザ）

■佐々木奏美

4月 はな・はる・フェスタ in 野外ポスター展～ここのいろ～1点出品

〔ポスターギャラリー実行委員会〕（於：しんまちボードウォーク）

5月 「9Colors ポスター展」1点出品（はな・はると同内容）

〔JAGDA 徳島地区+美協デザイン部〕（於：徳島市立図書館ギャラリー）

■沢口 功

2月 第44回徳島市芸術祭美術展 デザイン部門 審査員出品

（於：徳島市シビックセンター3階ギャラリー）

3月 第10回 沢口 功アート展 2016 個展

（於：那賀川町 喫茶 COFFEE WORKS KONOBU）

12月 第45回歳末チャリティー作品・色紙即売展 出品

〔徳島新聞社会文化事業団〕（於：そごう徳島店）

■敷島のり子

4月 はな・はる・フェスタ in 野外ポスター展～ここのいろ～企画開催 /1点出品

〔ポスターギャラリー実行委員会〕（於：しんまちボードウォーク）

5月 「9Colors ポスター展」1点出品（はな・はると同内容）

〔JAGDA 徳島地区+美協デザイン部〕（於：徳島市立図書館ギャラリー）

6月 美術文化展出品（於：東京都立美術館 京都市美術館）

■田中一郎

3月 第24回城東高校定期演奏会 ポスター・ちらし・チケット・プログラム表紙・看板のデザイン制作（於：徳島文理大学むらさきホール）

4月 はな・はる・フェスタ in 野外ポスター展～このころ～1点出品

〔ポスターギャラリー実行委員会〕（於：しんまちボードウォーク）

5月 「9Colors ポスター展」1点出品（はな・はると同内容）

〔JAGDA 徳島地区+美協デザイン部〕（於：徳島市立図書館ギャラリー）

■田村あい

1月 チャレンジとくしま芸術祭出品（於：徳島県立近代美術館）

4月 はな・はる・フェスタ in 野外ポスター展～このころ～1点出品

〔ポスターギャラリー実行委員会〕（於：しんまちボードウォーク）

5月 「9Colors ポスター展」1点出品（はな・はると同内容）

〔JAGDA 徳島地区+美協デザイン部〕（於：徳島市立図書館ギャラリー）

■西林良枝

2月 第44回徳島市芸術祭美術展 デザイン部門 特別出品

（於：徳島市シビックセンター3階ギャラリー）

■福井 章

「徳島賛画」をテーマに、ふるさと徳島を描く作業を続けています。

6月 1月にドイツで亡くなった友人の追悼集に、似顔絵と思いの文章を作成

7月 徳島調停協会連合会会報にイラストレーション（徳島の札所）を連載

12月 第45回歳末チャリティー作品・色紙即売展 出品

〔徳島新聞社会文化事業団〕（於：そごう徳島店）

■三木由佳里

2月 第44回徳島市芸術祭美術展 デザイン部門・B1 ポスター無鑑査出品

〔徳島市文化協会・（公財）徳島市文化振興公社〕

（徳島市シビックセンターギャラリー）

■山野井宏宗

4月 はな・はる・フェスタ in 野外ポスター展～このころ～1点出品

〔ポスターギャラリー実行委員会〕（於：しんまちボードウォーク）

5月 「9Colors ポスター展」1点出品（はな・はると同内容）

〔JAGDA 徳島地区+美協デザイン部〕（於：徳島市立図書館ギャラリー）

8月 「イメージフォトクラブ展 どきん6」 2点出品 （於：阿波銀プラザ）

9月 第101回 二科展デザイン部門入選 （於：東京 国立新美術館）

■吉本 實

2月 第44回徳島市芸術祭美術展 デザイン部門・B1 ポスター特別出品

〔徳島市文化協会・（公財）徳島市文化振興公社〕

（徳島市シビックセンターギャラリー）

10月 徳島県花基金事業 2017年版「とくしま花へんろポスターカレンダー」

アートディレクション・デザイン制作 〔（一財）徳島県観光協会〕

■四十宮隆志

3月 「JAGDA 日本グラフィックデザイナー協会 徳島地区役員改選会議」

2016年度より徳島地区代表幹事に就任

4月 はな・はる・フェスタ in 野外ポスター展～ここのいろ～ 1点出品

〔ポスターギャラリー実行委員会〕（於：しんまちボードウォーク）

5月 「9Colors ポスター展」 1点出品（はな・はると同内容）

〔JAGDA 徳島地区+美協デザイン部〕（於：徳島市立図書館ギャラリー）

6月 「JAGDA 日本グラフィックデザイナー協会 地区代表会議&通常総会&全国大会」会議、

授賞式、交流パーティー参加

（於：京都府 沸立ミュージアム&上七軒歌舞練場）

8月 「イメージフォトクラブ展 どきん6」 グラフィックデザイン5点出品

（於：阿波銀プラザ）

8月 「第16回広島国際アニメーションフェスティバル2016」

視察&交流パーティー参加 （於：広島県 JMS アステールプラザ他）

10月 「Golden Bee12/モスクワ国際ビエンナーレ グラフィックデザイン 2016」

B1ポスター作品3点入選展示、オープニングセレモニー&授賞式 参加

（於：ロシア モスクワ・アーティストセントラルハウス（CHA））

10月 「薬師寺奉納芸術祭・まほろばのあかり 2016」 グラフィックデザインを印刷した灯籠

1点出品 参加者懇親会&天武忌奉納行事 参加（於：奈良県 天平倶楽部&薬師寺）

11月 「Sofia Stage Poster 8/ソフィア国際トリエンナーレ ステージポスター 2016」

特別部門「謎」 B1ポスター作品3点入選展示

（於：ブルガリア ソフィア SBH ギャラリー他）

あ　と　が　き

会員の皆様をはじめ、関係者皆様のご尽力、ご協力のおかげで、春の第24回放美展、秋の第71回徳島県美術展も盛会に無事おわりました。心より感謝申し上げます。

新年度より、徳島県美術家協会ホームページが運用されます。会員の皆様の利便性も向上するものと信じております。

ホームページアドレスは【<https://toku-bikyo.info/>】になります。たくさんのアクセスをお待ちしています。まだまだ始めたばかりで、不備もありますが、お気づきのことなどは事務局までお申し出下さい。

なお、今回の美術年報の装丁は、彫刻部・佐藤 隆さんにお願いし、素晴らしいものとなりました。

二年間、写真部が事務局を担当させていただきましたが、新年度からは彫刻部に事務局が引き継ぎいたします。二年間大変お世話になりました。皆様のご協力感謝いたします。ありがとうございました。

最後になりましたが、これからも皆様の創作活動が人々に感動を与え、徳島県全体の美術界のますますの充実と発展に繋がりますことを心より祈念いたします。

徳島県美術家協会事務局
事務局長 上野 照文

美術年報 2017

平成 29 年 3 月 30 日 印刷

平成 29 年 3 月 31 日 発行

編集者 上 野 照 文

装幀者 佐 藤 隆

発行人 河 崎 良 行

印 刷 星印刷株式会社

発行所 徳島県美術家協会

徳島市大和町 2 丁目 3-48 上野方
